

宇都宮大学
留学生・国際交流センター一年報
2020年度

2021年8月

宇都宮大学留学生・国際交流センター

Center for International Exchange
Utsunomiya University

目次

センター長挨拶

留学生・国際交流センター長 平井 英明	1
---------------------	---

留学生・国際交流センター年報 2020年度

I 留学生・国際交流センターの概要

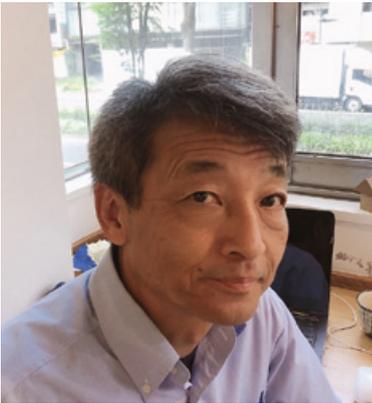
1 沿革・使命	7
2 組織	8
3 年間行事	8

II 留学生・国際交流センターの活動

1 教育・授業	15
1.1 留学生・国際交流センター開講授業	15
(1)初級日本語補習	15
(2)中級日本語短期留学プログラム	15
1.2 基盤教育および学部・大学院での授業	17
(1)基盤教育センター	17
(2)国際学部（専門科目）	17
(3)全学科目（Learning+1）	18
(4)とちぎグローバル人材育成プログラム共通科目	18
(5)地域創生科学研究科・修士課程（社会デザイン科学専攻）	18
(6)国際学研究科・博士後期課程	18
1.3 日本語・日本文化研修留学生プログラム	18
1.4 大学の世界展開力強化事業「アフリカ諸国との大学間交流形成支援」	20
1.5 国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラム	23
2 相談体制・生活支援	24
2.1 基本的認識	24
2.2 相談体制	24
2.3 相談実績	25
2.4 支援活動	25
2.5 各種オリエンテーション	26
2.6 留学生の防災教育	27
3 留学生交流支援	29
3.1 栃木県地域留学生交流推進協議会	29
3.2 交流支援事業の中止について	30
3.3 小・中・高等学校での国際交流	31

4	留学生の獲得施策	32
4.1	日本留学フェアなどへの参加	32
4.2	日本語学校等を会場とした外国人学生のための進学説明会	33
4.3	日本留学海外拠点連携推進事業「日本留学・就職フェア（タイ）」	34
4.4	栃木県内の日本語学校訪問	34
4.5	交換留学生のための大学院進学説明会	34
4.6	宇都宮大学サテライトオフィスの一時休止	34
5	日本人学生の海外派遣留学の推進・支援	35
5.1	海外留学説明会	35
5.2	国際インターンシップ	35
5.3	海外渡航前危機管理オリエンテーション	37
5.4	海外英語研修	37
	(1)マレーシア・サラワク大学	37
	(2)オーストラリア・サザンクロス大学	39
	(3)カナダ・カピラノ大学	40
5.5	海外渡航危機管理サービス	40
6	各種協議会等への参加	41
6.1	令和2年度全国国立大学法人留学生センター長及び留学生課長等合同会議	41
6.2	令和2年度国立大学法人等国際企画担当責任者連絡協議会	41
6.3	2020年度国立大学法人留学生センター等留学生指導担当研究協議会	42
6.4	2020年度第2回国立大学留学生指導研究協議会 (兼：第54回大阪大学留学生教育・支援協議会)	42
6.5	令和2年度日本語・日本文化研修留学生問題に関する検討会	43
Ⅲ 資 料		
1	留学生在籍状況	47
	(1)留学生種別在籍者数	47
	(2)国・地域別留学生数	47
2	国際交流協定校との受入・派遣状況一覧	48
	(1)大学間交流協定校との学生派遣・受入実績	48
	(2)部局間交流協定校との学生派遣・受入実績	49
	(3)留学生数の推移	51
	(4)栃木県内高等教育機関に在籍の外国人留学生数の推移	51
3	留学生・国際交流センターの発行者	52

<センター長挨拶>



留学生・国際交流センター長 平井 英明

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の流行下で、日本政府および各国が出入国制限を実施したことにより、2020年度開始時の4月来日留学生は1名でした。また、新入生ガイダンス等の対面行事及び授業、学生のキャンパス入構を全面自粛し、教員は原則自宅勤務、事務職員も交替勤務となりました。このため、当センター行事も対面行事は全て中止となり、学生指導はメールや電話を用いることになりました。緊急事態宣言が明け、在宅勤務も概ね終了した6月以降は、オンラインによる授業、学生指導方法を模索しつつ実施することになりました。一方、学外団体主催のホームステイなどの対面交流が不可欠な文化体験行事は、全て主催団体から中止の連絡がありました。

6月に入りまして、特筆すべきことは、増山緊急奨学金支給（第一回）の給付が、留学生対象に始まったことです。審査の結果、合計91名に5万円ずつが支給されました。留学生の嬉しい横顔が忘れられません。11月に文部科学省に申請していました「大学の世界展開力強化事業：アフリカの潜在力と日本の科学技術融合によるSDGs貢献人材育成プログラム」がヒアリングを経て、採択の運びとなりました。採択後も、留国センターの教職員をはじめ、国際学部および農学部の教員が協働してパンフレットの制作やキックオフイベントやカリキュラムの編成等に取り組み、成功裡にキックオフイベントがアフリカより6大学の参加を得て、3月に実施されました。

さらに、12月になりますと、当センターおよび地域創生科学研究科の教職員が協働して申請しました国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラム「多様な地域創生に資する工農イノベーション人材育成プログラム」の採択通知が参りました。国費外国人留学生と私費外国人留学生および日本人学生が共修する特別プログラムです。国費外国人留学生の特別枠が一般枠に加えて増加したことは、留学生・国際交流センターの教職員サポートの賜物です。今後、特色あるプログラムの中でSDGsセミナーが実施されていきます。

2月に、オンライン海外英語研修が実施されました。オンライン型の海外英語研修として全学部の教員とマレーシア・サラワク大学の教職員・学生と共に創る英語研修となり、留学生・国際交流センターが全学の楔としての機能を果たす一つのモデルとなる英語研修会となりました。

3月31日（水）に、懸案の課題でした『国際交流等に伴う危機管理対応マニュアル（第3版）』が発行されました。加えて、災害時に留学生が対応可能であるようにとの配慮から、留国センター「防災カード」が発行されました。この防災カードは、地域連携・貢献活動支援事業の助成を受けています。地域デザイン科学部、国際学部、地域デザインセンターの教員および留国センターの教職員が、共に創り上げた防災カードで、さらには、スマートフォンで活用しやすいようにQRコードもついていますので、今後活用が期待されます。

2021年3月 吉日

宇都宮大学
留学生・国際交流センター一年報
2020年度

2021年8月

宇都宮大学留学生・国際交流センター

Center for International Exchange
Utsunomiya University

I 留学生・国際交流センターの概要



1 沿革・使命

宇都宮大学に在籍する外国人留学生は、正規生（学部学生及び大学院学生）及び非正規生（交換留学生、研究生及び日本語・日本文化研修留学生等）合わせて、令和2（2020）年10月現在では、世界21カ国から269名の留学生が学んでいる。

留学生・国際交流センター（以下、「センター」という。）は、当初外国人留学生に対し、必要な日本語・日本事情教育及び修学・生活上の指導助言を行うとともに、留学生と地域との交流の推進や海外留学を希望する学生に対する指導助言を行うことを目的として、平成14（2002）年4月に留学生センターとして設置された。

その後、平成24（2012）年4月に留学生・国際交流センターへ改組し、それまでの「日本語教育運営部門」と「留学生指導・相談部門」の2部門に、「国際交流推進部門」を新たな部門として設置して3部門とし、国際交流のより積極的に具体的な業務展開を推進することとした。さらに、平成29（2017）年4月に部門制を廃止し、新たな体制として各学部等の協力教員を加え、各学部等との連携を強化した。

センターには、センター長、専任教員2名（うち1名は副センター長）、センター協力教員7名、コーディネーター1名、また事務体制として留学生・国際交流センター事務室が配置され、教育、相談指導、交流事業等の業務に当たっている。2020年度はCOVID-19の拡大防止のためセンター主催事業等を多くが中止またはオンラインでの実施となったが、センターが例年実施している業務の主な内容は次のとおりである。

(1) 日本語の授業

センターでは、研究・交流の場や日常生活の中で円滑な意思疎通が行えるように、留学生にさまざまな学習の機会を用意している。日本語の授業は、初級から上級までをカバーし、日本語のコミュニケーション技能と、日本語で行われる学術・研究活動での表現力の向上を目指すものである。現在、全留学生を対象としたカリキュラムとともに、学部留学生や国費留学生（研究留学生、教員研修留学生、日本語・日本文化研修留学生）を対象とした授業を行っている。

(2) 相談指導

相談指導担当の教員が、修学上や生活の中で生じた問題について、留学生と話し合い、適切な助言を与えている。また、留学生、チューター指導教員の間で連携をとることにより、必要なときに適切な支援ができるシステムづくりを目指している。

(3) 交流事業

センターは、留学生と地域社会との充実した交流プログラムづくりに努めている。また、地元の国際交流団体やボランティアグループと連携することにより、交流の機会を少しでも増やそうと、地域住民に呼びかけてホームステイ体験事業を行っている。同時に多彩な文化交流活動を通じて、留学生と日本人学生の相互理解を深め異なる文化をお互いに尊敬する態度を養っている。

(4) 留学生・国際交流課

平成31（2019）年4月に事務組織改編により、学務部が改組され、留学生・国際交流課は留学生・国際交流センター事務室として、センター直属の事務組織となった。事務室は、学生及び教員の国際交流に関する様々な業務及びセンター運営にかかる事務も担当し、留学生が安心して勉学に専念できるよう、以下のような修学上・生活上の支援業務を行っている。

- ①奨学金に関すること
- ②国際交流会館の入退居に関すること
- ③海外留学に関すること
- ④留学生のチューターに関すること
- ⑤地域交流事業についての情報提供に関すること

2 組織

(令和3(2021)年3月1日現在)

留学生・国際交流センター教員		
センター長(農学部教授併任)	平井英明	
教授(副センター長)	湯本浩之	
助教	飯塚明子	
協力教員	地域デザイン科学部 准教授	三田 妃路子
	地域デザイン科学部 助教	王 玲 玲
	国際学部 准教授	出羽 尚
	国際学部 准教授	清水 奈名子
	教育学部 准教授	山野 有紀
	工学部 教授	大谷 幸 利
	農学部 准教授	福村 一 成

留学生・国際交流センター事務局	
事務室長	田崎正憲
国際交流企画係長	神戸幸
留学生係長	沖杉礼子
係員	小川麻友
事務補佐員	山本浩之
事務補佐員	大坪里紗
事務補佐員	ナイト志保
事務補佐員	古内智美
事務補佐員	二宮由美
国際インターンシップ事務局	
コーディネーター	栗原謙治

<非常勤講師>

〔日本語教育〕 石川 美和 八重島 炎 森谷 祥子 石 文君 澤村 真由美
 〔Learning+1〕 児島 建彦

3 年間行事

<特記事項>

新型コロナウイルス感染症(以下、COVID-19)の流行により、日本政府及び各国が出入国制限を実施したため、新年度開始時の4月来日留学生は1名であった。また、3月に緊急事態宣言発令により2020年度当初は、新入生ガイダンス等の対面での行事及び授業、学生のキャンパス入構を宇都宮大学は全面自粛し、教員は原則自宅勤務、事務職員も交替勤務となった。そのため、当センター行事も対面行事は全て中止、学生指導はメールや電話で行った。

緊急事態宣言が明け、在宅勤務も概ね終了した6月以降は、ZoomやTeamsなどのウェブ会議ソフト、学生ポータルやC-learningなどの学生向けグループウェア、従来のウェブサイトやFacebookや電子メールを用いた、オンラインによる研修や授業、学生指導をその方法を模索しつつ実施することとなった。

一方、学外団体主催のホームステイなどの対面交流が不可欠な文化体験行事は、全て主催団体から中止の連絡があった。

○当センター主催で中止し、対象学生に対し個別にオンラインで指導や情報提供した行事

4月及び10月の国際交流会館入居説明会
 新規来日留学生(学部留学生を除く)オリエンテーション
 新規来日留学生生活上の留意事項説明会/新規来日留学生歓迎会
 国際交流会館退去説明会
 海外留学渡航前危機管理オリエンテーション
 海外留学説明会(6月)・交換留学フェア(10月)

○学部等の主催部局が中止したため、当センターからオンラインでオンデマンドに情報提供した行事

保護者向け留学情報説明会
 学部新入生向け留学情報説明会
 学部1年生及び編入留学生オリエンテーション



○当センター主催で中止した行事

- 夏期英語研修（オーストラリア・サザンクロス大学）
- 夏期国際インターンシップ（台湾・タイ等）
- 令和2年度交換留学生のための大学院進学説明会・外国人留学生と地域交流団体等との交流会
- 春期海外英語研修（カナダ・カピラノ大学）
- 令和元年度後期中級日本語短期プログラム修了発表会 ※単位認定のみ

○学外団体主催で中止となった行事

- 令和2年度留学生支援事業に関する担当者会議（主催：栃木県国際交流協会）
- 5月30日（土）令和2年度新規外国人留学生のためのガイダンス及び懇親パーティー
（主催：栃木県国際交流協会、栃木県地域留学生交流推進協議会）
- ホームステイウィークエンド in 那珂川（春：田植え）
（主催：那珂川国際交流事業企画運営委員会、那珂川町教育委員会）
- 外国人留学生ホームステイ受入事業（宇都宮市、主催：NPO 法人宇都宮市国際交流協会）
- 7月7日（火）第32回国際交流の集い（副題：七夕の集い）（主催：栃木経済交友会）
- 令和2年度（第12期）トビタテ！留学JAPAN 日本代表プログラム・地域人材コース壮行会
- ホームステイウィークエンド in 那珂川（秋：稲刈り）
（主催：那珂川町教育委員会、那珂川国際交流事業企画運営委員会）
- 外国人留学生のための就活セミナー（主催：栃木県労働局外国人留学生就職支援協議会）
※キャリア教育・就職支援センターが共催協力
- 外国人留学生合同企業説明会（主催：栃木県労働局外国人留学生就職支援協議会）
※キャリア教育・就職支援センターが共催協力

<～4月>

○外国人上陸拒否及び邦人渡航自粛の経過

- 2月13日 中国湖北省からの外国人上陸拒否
- 3月7日 中華人民共和国湖北省及び浙江省等追加
- 3月11日 イラン・イスラム共和国及びイタリア共和国等追加
- 3月19日 スペイン、アイスランド等追加
- 3月27日 オーストリア、オランダ、ドイツ、北欧各国等21ヶ国追加
- 4月1日 73ヶ国への渡航自粛及び各国からの外国人上陸拒否。以後、徐々に拡大。

○緊急事態宣言発令

- 7日 東京、神奈川、埼玉、千葉、大阪、兵庫、福岡の7都府県に緊急事態宣言
- 16日 対象を全国に拡大

○本学の対応

- 入学式中止、新入生ガイダンス中止、課外活動禁止、オンライン授業のみ、学生の入構原則禁止
- 9日 「新型コロナウイルス感染症対策のための宇都宮大学の対応方針」制定
- 以後、対応方針に基づき、施設利用や活動を行う（2021年4月現在もステージ2Aにて対応中）
- ※在校生で、春休み中に帰省や観光で渡航し、新学期直前に再入国できなくなり、入国せずオンライン受講や休学をするケースがあった。

○当センターの対応

留学生の派遣はなし、2019 年度中から私事含めて渡航している学生には帰国勧告
交換留学生・日研生等の新規受入れは、水際対策による入国制限開始前に入国した者 1 名のみ
3 月上旬以降に来日予定であった留学生・外国人研究者等は来日や留学期間を延期
2019 年度後期に来日済の交換留学生・日研生と新規 1 名で新年度開始

< 5 月 >

○緊急事態宣言解除

14 日 下記の 8 つの都道府県を除く、39 県で緊急事態宣言を解除
21 日 大阪・京都・兵庫で緊急事態宣言を解除
25 日 北海道・東京・埼玉・千葉・神奈川で緊急事態宣言を解除

< 6 月 >

5 日 (金) 2019 年度春期海外英語研修 (マレーシア・サラワク大学) オンライン報告会
8 日 (月) ~ 9 日 (火) 増山緊急奨学金支給 (第一回) ※91 名に 5 万円ずつ支給
上旬 「学びの継続」のための「学生支援緊急給付金」第一次給付
12 日 (金) 栃木県地域留学生交流推進協議会総会 (主催: 栃木県地域留学生交流推進協議会)
※ オンライン開催、令和 2 年度留学生との交流会は中止
29 日 (月) ~ 7 月 3 日 (金) 外国人留学生のための就職ガイダンス「日本での就職活動の方法と準備」
(主催: 宇都宮大学キャリア教育・就職支援センター) ※オンライン配信

< 7 月 >

6 日 (月) 対面授業一部再開 ※当センター開講科目はオンライン授業を継続
中~下旬 「学びの継続」のための「学生支援緊急給付金」第二次給付
26 日 (日) とちぎインターンシップフェア 2020 (主催: 栃木県)
29 日 (水) ~ 31 日 (金) グローバル人材を対象とした『合同企業説明会 (オンライン)』
(主催: 栃木県、栃木県国際交流協会)
下旬~8 月上旬 前期日本語短期留学プログラム修了発表会
※授業科目「日研生特別研究Ⅱ」内で開催

< 8 月 >

4 日 (火) 「日本語・日本文化研修留学生」修了レポート発表会
4 日 (火) 令和 2 年度留学生・国際交流センター表彰 ※9 月帰国者の表彰を臨時に決定した
19 日 (水) 国公立大学 ONLINE 進学フェア for 長沼スクール

< 9 月 >

8 日 (火) 2020 年度国立大学法人留学生センター等留学生指導担当研究協議会 ※オンライン開催

< 10 月 >

○外国人上陸拒否及び邦人渡航自粛の経過

9 月 1 日 再入国許可をもって出国していた外国人の再入国再開
10 月 30 日 159 ヶ国に渡航自粛及び外国人上陸拒否国・地域等 拡大



○本学の対応

授業は原則オンライン授業（一部のみ特設期間（10月1日～28日）に対面授業実施）

後期交換留学派遣・受入れとも渡航を伴う件はなし。

オンライン交換留学は派遣・受入れとも可。若干名の派遣・受入れがあった

日研究生は来日時期未定として2020年度受入れを開始し、オンライン授業にて対応

国費外国人留学生は本人の希望及び研究室等の受入体制を整えた上で来日受入。

再入国許可を有する留学生の再入国開始

当センター開講科目は全てオンライン授業を継続

20日（金）令和2年度全国国立大学法人留学生センター長及び留学生課長等合同会議

（主催：静岡大学）※メール会議

29日（木）2020年度日本アイラック・AIG 損害保険共催大学国際交流・海外研修管理者向け危機管理オンラインセミナー ※オンライン開催

< 11月 >

6日（金） JICA 開発大学院連携 第三回連絡協議会

17日（火） 県内高等教育機関及び関係市町村国際交流協会による意見交換会報告

20日（金） 令和2年度日本語・日本文化研修留学生問題に関する検討会議

（主催：大阪大学）※オンライン開催

26日（木） 令和2年度留学生指導教員及び事務担当者研修会

（主催：栃木県地域留学生交流推進協議会）※オンライン開催

11月21日（土）／22日（日）／28日（土）

2020年度JASSO主催外国人学生のためのオンライン進学説明会

11月29日（日）／12月6日（日）／12月12日（土）／12月13日（日）

2020年度JASSO主催日本留学オンラインフェア

< 12月 >

2日（水） 令和元年度春期国際インターンシップ報告会及び令和2年度春期説明 ※オンライン開催

2日（水） グローバル人材を対象とした合同企業説明会（県内）

（主催：栃木県、栃木県国際交流協会）

5日（土）／11日（金）／12日（土） TOCHIGI JOB FAIR IN DANANG（ベトナム社会主義共和国の現地大学生等を対象とした合同企業説明会）（主催：栃木県）

15日（火） 栃木県内の日本語学校訪問

18日（金） 外国人留学生就活支援セミナー「企業内定を得た先輩留学生との情報交換会」

（主催：宇都宮大学キャリア教育・就職支援センター）※オンライン開催

○大学の世界展開力強化事業採択（学生募集は2021年度）

○国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラム採択（カリキュラム開始は2021年度から）

< 2月 >

2日（火） 令和2年度留学生・国際交流センター表彰

8日（月） 令和2年度第2回国立大学法人留学生指導研究協議会

（兼：第54回大阪大学留学生教育・支援協議会）※オンライン開催

15日（月）～20日（土） 海外英語研修（マレーシア・サラワク大学）※オンライン開催

18日（木）～3月3日（木） 令和2年度春期国際インターンシップ（マレーシア・Insar Tours & Travel

Sdn. Bhd.) ※ オンライン開催

< 3月 >

○大学執行部の要望により、国際交流会館 A 棟・C 棟の 4～5 階及び B 棟・D 棟の空き室を、学生寮等居住学生が感染症罹患疑い時などの隔離施設に整備し、流行拡大に備えた。

(A 棟・C 棟 1～2 階に国際交流会館入居者が居住、3 階は緩衝地帯として確保)

1 日 (月)～17 日 (水) 日本留学海外拠点連携推進事業 日本留学・就職フェア (タイ)

(主催: 金沢大学)

5 日 (金) 栃木県地域留学生交流推進協議会運営委員会

(主催: 栃木県地域留学生交流推進協議会) ※ オンライン開催

8 日 (月)～9 日 (火) 緊急奨学金支給 (第二回) ※ 20 名に 5 万円ずつ支給。

8 日 (月)～26 日 (金) 令和 2 年度春期国際インターンシップ (台湾・臺北城市科技大学) ※ オンライン開催

24 日 (水) 大学の世界展開力強化事業「アフリカ諸国との大学間交流形成支援」キックオフミーティング
※ オンライン開催

31 日 (水) 「国際交流等に伴う危機管理対応マニュアル (第 3 版)」及び「防災カード」発行

(以上、留学生・国際交流センター事務室)

Ⅱ 留学生・国際交流センターの活動

1 教育・授業

1.1 留学生・国際交流センター開講授業

(1) 初級日本語補習

平成30(2018)年度より従来の初級日本語補習に代えて、単位の取得を可能とする正規科目として以下のような初級日本語科目を開講している。本科目は、本学および本学各学部が交流協定を結んでいる海外の大学からの交換留学生や研究留学生などを対象としたものである。本プログラムを通して、日本語の基本的な文法や語彙、表現を学びながら、聞くことや話すことを総合的に学び、日本語運用能力の向上を目的とするものである。

	科目名	コマ/週	単位	担当教員	受講学生
前期	初級日本語ⅠA 文法・語彙①	2	2	石川	特別聴講学生(日研生・交換留学生・短期留学生など) 大学院生
	初級日本語ⅠA 聴解・口頭表現①	2	2	石川	
	初級日本語ⅡA 文法・語彙②	2	2	石	
	初級日本語ⅡA 聴解・口頭表現②	2	2	森谷	
後期	初級日本語ⅠB 文法・語彙①	2	2	石川	研究留学生 教員研修生 研究生
	初級日本語ⅠB 聴解・口頭表現①	2	2	石川	
	初級日本語ⅡB 文法・語彙②	2	2	石	
	初級日本語ⅡB 聴解・口頭表現②	2	2	八重島	

(2) 中級日本語短期留学プログラム

留学生・国際交流センターでは、平成20年4月から、「宇都宮大学中級日本語短期留学プログラム」を実施してきている。本プログラムは、本学と交流協定を締結している海外の大学から派遣された留学生を対象とした、6ヶ月～12ヶ月間の留学プログラムで、このプログラムを通して日本語能力を上げるとともに、日本社会および日本文化について理解を深めることを目的にしている。

海外の交流協定提携校から本学に派遣された外国人留学生は、日本語能力が非常に限られており、その中には、中級日本語の授業を受講できるレベル(日本語検定試験3級くらいのレベルで、日常生活面においては、簡単な買い物ができ、自分で電車に乗られるくらいのレベル)の学生が多かった。これらの留学生は、学部で提供されている普通の日本人向けの授業を受講することは非常に困難であることから、これらの留学生のニーズに答えるため、検討を重ねた結果、平成20(2008)年度から、交流協定を結んでいる海外の大学からの留学生を対象とする「中級日本語短期プログラム」を実施することになった。

令和2(2020)年度では、8名(前期修了:6名、後期修了:2名)の留学生が本プログラムに登録したが、最終的には7名(前期修了:5名、後期修了:2名)が修了した。本プログラムの目的や令和2(2020)年度の実施要領等を以下に示す。

1) 目的

本プログラムは、本学および本学各学部と交流協定を締結している海外の大学からの留学生を対象として受け入れ、本学における日本語教育、日本文化等の授業科目を提供するための教育プログラムである。本プログラムは、日本および日本文化に対するより良き理解者としてだけでなく国際社会で活躍できる人材を育成することを目的に、6ヶ月～12ヶ月にわたり、本学での日本語教育、日本文化体験および本学の学生・教職員との交流等を実施するものである。

2) 対象者

本プログラムに出願できる者は、以下の2つの要件をすべて満たしたものとする。なお、留学生センター長が特別許可する者については、その限りではない。

- ①特別聴講学生（本学および本学各学部と学生交流協定を結んでいる外国の大学の正規課程に在籍している学部学生又は大学院学生）。
- ②渡日前に 300 時間程度の日本語教育を受けている学生、あるいは（財）日本国際教育支援協会実施の日本語能力試験 3 級に合格している学生。

3) 受入れ期間

原則として、10 月からの 1 年間、または 4 月からの半年間とする。

4) 受入れ予定人数

毎年 10 名～ 15 名程度とする。ただし、本年度はコロナ禍の影響により、受入人数は 8 名（ただし、修了人数は 7 名）であった。

5) 修了要件

- ①一年間のコースでは、年間 10 科目以上を履修し、かつ単位を取得すること。ただし、「短期留学プログラム」のコア日本語科目の中から 6 科目以上を履修すること。なお、学生の日本語能力によって、基盤教育科目または国際学部で開講する日本語科目（上級レベル）を用いて代えることができる。
- ②半年間のコースでは、半期で 5 科目以上を履修し、かつ単位を取得すること。ただし、「短期留学プログラム」のコア日本語科目の中から 3 科目以上を履修すること。なお、学生の日本語能力によって、基盤教育科目または国際学部で開講する日本語科目（上級レベル）を用いて代えることができる。
- ③自主研究レポートを提出すること。

6) 令和 2 年度中級日本語科目

	科目の種類	科目名	単位	担当教員
前期	コア日本語科目	中級日本語IA文法	2	八重島
		中級日本語IA読解	2	石川
		中級日本語IA作文	2	八重島
		中級日本語IA聴解と会話	2	八重島
		中級日本語II 漢字と漢字文化	2	石川
		中級日本語II 中級会話A	2	(非開講)
		中級日本語II 中級作文A	2	八重島
		中級日本語II 中級文法A	2	八重島
		中級日本語II 中級聴解A	2	石
		中級日本語II 中級読解A	2	石川
	中級日本語II 中級総合	2	森谷	
	演習科目（必修）	短期留学生特別演習A	2	八重島
後期	コア日本語科目	中級日本語IB文法	2	八重島
		中級日本語IB読解	2	澤村
		中級日本語IB作文	2	八重島
		中級日本語IB聴解と会話	2	戚
		中級日本語II 中級漢字	2	石川
		中級日本語II 中級会話B	2	戚
		中級日本語II 中級作文B	2	石川
		中級日本語II 中級文法B	2	八重島
		中級日本語II 中級聴解B	2	澤村
		中級日本語II 中級読解B	2	八重島
		演習科目（必修）	短期留学生特別演習B	2

7) 自主研究：短期留学生特別演習 A・B

留学生は担当教員と相談した上で研究テーマを決める。更に、担当教員の指導のもと、研究成果をまと

めたレポートを修了時に提出する。

8) 成績評価・単位認定

この教育プログラムの受講生に対して、履修した授業科目、成績評価および単位数を記載した成績書を発行する（ただし、留学センター開講科目については留学生センター長名で発行する）。本学の発行した成績書に基づき、留学生を派遣した大学において単位認定が行われる。但し、学位取得に関する単位として認定するか否かの判断は留学生を派遣した大学に委ねる。

9) 令和2（2020）年度「中級日本語短期留学プログラム」修了者

氏名	国籍	派遣元大学	コース
SHEN XIN	中国	電子科技大学	1年間
NEANG CHANNET	カンボジア	王立プノンペン大学	1年間
CHEA SREYPICH	カンボジア	王立プノンペン大学	1年間
CHHANG SODALENH	カンボジア	王立プノンペン大学	1年間
LAM CHI LOK PANSY	香港	香港大学	1年間
FENG MEILIN	中国	チチハル大学	1学期
WU JINGRONG	中国	チチハル大学	1学期

（湯本 記）

1.2 基盤教育および学部・大学院での授業

留学生・国際交流センターの専任教員は、基盤教育センターや国際学部をはじめ、全学科目である Learning+1 や新設された大学院（地域創生科学研究科）などの授業科目を担当している。令和2（2020）年度にセンター所属の専任教員および非常勤講師が開講した授業科目は以下の通りである。

なお、当初は全学科目の Learning+1 の英語講科目として開講された Globalization and Society、Risk Management および International Political Economy は、それぞれ同じ講義内容で複数の学部の専門科目やとちぎグローバル人材育成プログラム共通科目などとしても同時開講されている。

(1) 基盤教育センター

学期	科目名	担当教員	備考
前期	災害に強いコミュニティづくり	飯塚	
	3.11 学問の不確かさ	清水	第11回を担当（飯塚）

(2) 国際学部（専門科目）

学期	科目名	担当教員	備考
前期	グローバルイシュー研究演習Ⅰ	重田・湯本	
	グローバル教育論	湯本	
	国際協力研究演習 F（グローバル教育論演習）	湯本	
	国際共生研究演習 G（Disaster Studies 演習）	飯塚	
	卒業研究Ⅰ	湯本	
後期	グローバルイシュー研究演習Ⅱ	重田・湯本	
	Disaster Studies	飯塚	英語開講科目
	外国語臨地演習（英語）※ サラワク大学	出羽	飯塚（協力教員）
	卒業研究準備演習	湯本	
	卒業研究準備演習	飯塚	
	卒業研究Ⅱ	湯本	

集中	国際キャリア教育	湯本他 2 名	
	International Career Seminar	栗原他 2 名	飯塚 (分科会 B)
	国際キャリア実習 (インターンシップ)	湯本他 2 名	
	Globalization and Society	湯本	英語開講科目
	Risk Management	飯塚	英語開講科目
	International Political Economy	兒島	英語開講科目

(3) 全学科目 (Learning+1)

学期	科 目 名	担当教員	備 考
集中	国際インターンシップ	湯本・飯塚他	単位は各学部で振り替え
	Globalization and Society	湯本	英語開講科目
	Risk Management	飯塚	英語開講科目
	International Political Economics	兒島	英語開講科目

〔備考〕 Globalization and Society は国際学部のほか、地域デザイン科学部、工学部、農学部でも開講されている。

(4) とちぎグローバル人材育成プログラム共通科目

学期	科 目 名	担当教員	備 考
集中	Globalization and Society	湯本	英語開講科目
	Risk Management	飯塚	英語開講科目

(5) 地域創生科学研究科・修士課程 (社会デザイン科学専攻)

学期	科 目 名	担当教員	備 考
後期	グローバル教育と開発教育 I・II	湯本	グローバルエリア・スタディーズ・プログラム
	防災と国際協力 I・II	飯塚	グローバルエリア・スタディーズ・プログラム
集中	Globalization and Society*1	湯本	地域創生リテラシー科目
	International Political Economics*3	兒島	地域創生リテラシー科目
通年	グローバル・エリアスタディーズ特別研究	湯本	

(6) 国際学研究科・博士後期課程

学期	科 目 名	担当教員	備 考
後期	国際教育政策研究	湯本	

(湯本・飯塚 記)

1.3 日本語・日本文化研修留学生プログラム

留学生・国際交流センターでは旧称「留学生センター」として発足以来、文部科学省の国費留学生である「日本語・日本文化研修留学生」(略称「日研生」)を毎年受け入れている。

日研生は 10 月に来日後、必修科目 4 科目、および基盤教育科目、各学部専門科目、留学生・国際交流センター科目の中から自分の研修テーマに関連する選択科目 12 科目の合計 16 科目を履修する。そして、日本語能力の向上と日本文化に関する専門知識の深化を図るとともに、担当教員や指導教員の下で研修を進め、帰国までにその成果を研修レポートとして提出する。

なお、本年度はコロナ禍の影響により、日研生プログラムのオンラインでの実施となった。とくに、10 月来日予定であった 3 名の日研生については、来日することが適わず、自国からのオンライン授業となった。



(1) 授業科目

科目種別	学期	授業科目名	単位数	開講部局
必修科目 (4科目)	前期 (※1)	日本語・日本文化Ⅱ	2	留国センター
		日研生特別研究Ⅱ	2	留国センター
	後期 (※2)	日本語・日本文化Ⅰ	2	留国センター
		日研生特別研究Ⅰ	2	留国センター
選択科目 (12科目)	上級レベル日本語科目	日本語アカデミック・リーディングⅡ	1	基盤教育
		日本語アカデミック・プレゼンテーション	1	基盤教育
		科学技術のための専門日本語	1	基盤教育
		人文社会系のための専門日本語	1	基盤教育
	言語・日本文化 関連の科目	Japanese Communication Arts	2	基盤教育
		多言語コミュニケーション学A	2	基盤教育
		多言語コミュニケーション学B	2	基盤教育
		Globalization and Society	2	国際学部
		グローバル教育論	2	国際学部
		移民と多文化教育	2	国際学部
		日本語論	2	国際学部
		日本語史	2	国際学部
		言語比較論	2	国際学部
		日本文化論A	2	国際学部
		多文化共生コア(異文化間コミュニケーション)	2	国際学部
		日本文学史	2	教育学部
		日本文学概説A	2	教育学部
		日本文学史	2	教育学部
		日本文学概説A	2	教育学部

※1 前期：平成30年度(2018-2019)日研生対象

※2 後期：平成31年度(2019-2020)日研生対象

(2) 日本語・日本文化研修留学生修了レポート発表会

2019年9月末に、韓国、中国、タイ、スロバキヤの4か国から計5名の日研生が来日したが、2020年8月に、1年間の研修成果をまとめた修了レポートの発表会をオンラインで開催し、1年間のプログラムを無事に修了した。かれらの研修テーマは以下の通りであったが、日本語や日本文化に関するたいへんユニークなテーマが取り上げられており、学生たちの日本文化や日本社会に対する関心の高さをうかがうことができた。なお、2021年1月に修了レポート集を発行したので、詳細は同レポート集を参照されたい。

<実施概要>

日 時：2020年8月4日(火) 16:00～17:30

会 場：オンライン会議 (Zoom ID: 959 2803 2880)

内 容：(司会) 飯塚 明子 (「日本語・日本文化研修留学生プログラム」担当教員)

①開会の辞：湯本 浩之 (留学生・国際交流センター副センター長)

②修了レポート発表：

1) 「ファッション強国『日本』が持つ力とは何か？」

ジャン・ヘリン (JANG HYE RIN・韓国)

2) 「日本のごみ分別の方法から中国のごみ問題の解決を探る」

セキ・イン (SHI YING・中国)

3) 「日本における自転車の習慣」

トースムパープ・イッティサック (TOSOMPHAR ITHISAK・タイ)

4) 「飲食店における日本の習慣：『お冷』『会計の仕方』『お通し』『おしぼり』を中心に」

ゴ・シセイ (WU SHIQING・中国)

5) 「今昔物語集に登場する動物の象徴について」

ローベルト・カガルダ (ROBERT CAGARUDA・スロバキヤ)

③閉会の辞：飯塚 明子 (「日本語・日本文化研修留学生プログラム」担当教員)

(3) 令和 2 (2020) 年度日本語・日本文化研修留学生の受け入れ

2020 年 9 月末に、令和 2 (2020) 年度の日本語・日本文化研修留学生 (日研生) 3 名が来日の予定であったが、コロナ禍のため来日が適わず、自国からのオンラインでの実施となった。学事歴の後期にあたる研修前半 (10 月～3 月) では、日本語・日本文化研修留学生プログラムの日本語科目等をオンラインで受講した。そのほか、必修科目「日研生特別研究 I」の一環として、国際学部附属多文化公共圏センター、日光市観光経済部観光課および日光市国際交流協会の共催によるシンポジウム「国際交流都市日光の再発見：日光のインバウンドについて留学生と考える」(12 月 5 日) に参加した。

なお、後期の授業終了時点 (2020 年 1 月) での研修テーマは以下の通りである。研修後期にあたる来年度前半は、さらにテーマを検討しながら修了レポートを執筆していくこととなる。

名前	国籍	大学名	研修テーマ
沈 安南 (シン・アンナン)	中国	浙江師範大学	中国における日本語専攻者・非専攻者の学習動機についての比較：浙江師範大学の大学生を対象に
NUTTAWILARD TODSAPOL (ナッタヴィラード・トッサポン)	タイ	カセサート大学	タイ人日本語学習者と日本語母語話者に見られる「断り」の表現
LEE MINKYUNG (イ・ミンギョン)	韓国	慶北大学校	日本と韓国ドラマの中の職場での女性の姿：「派遣の品格」と「ミセン」を中心に

(湯本・飯塚 記)

1.4 大学の世界展開力強化事業「アフリカ諸国との大学間交流形成支援」

「大学教育再生の戦略的推進」の一環として、文部科学省が実施している標記事業に対して、本学は「アフリカの潜在力と日本の科学技術融合による SDGs 貢献人材育成プログラム」(タイプ A: スタートアップ型) を申請し、12 月に採択された。本事業は、国際的に活躍できるグローバル人材の育成と大学教育のグローバル展開力の強化を目指し、高等教育の質の保証を図りながら、日本人学生の海外留学と外国人学生の戦略的受入を行う事業対象国・地域の大学との国際教育連携の取組を支援することを目的として、2011 (平成 23) 年度から開始された事業である。

今年度は本事業の推進に向けて、夏秋理事の下にワーキンググループを発足させ、広報用ツールの作成やキックオフミーティングの開催を企画するとともに、組織的には 2 月に学術国際委員会の下に世界展開力強化事業推進室が設置され、留学生・国際交流センター事務室がその実務を担当することとなった。

(1) 事業概要

1) 事業期間：2020 年度～2024 年度 (5 年間)

2) 事業目的：

文理融合の教育研究を特徴とする宇都宮大学大学院地域創生科学研究科における、農学部および国際学部関係のプログラムが、アフリカにおいて食料生産から流通・加工・販売システムまで含めた高生産性農業を中心として、地域社会の潜在力や社会構造に基づく持続的発展のあり方を理解し、日本とアフリカの

共同事業に貢献できる人材育成を目的とする。

3) 交流プログラムの概要：

- ①分子農学およびスマート農業に基づく高生産性農業の確立
- ②高生産性農業や在来種に基づく持続的地域社会の構築

4) 連携大学

- ジョモ・ケニヤッタ農工大学（ケニヤ）
- メル科学技術大学（ケニヤ）
- アディスアベバ大学（エチオピア）
- ダルエスサラーム大学（タンザニア）
- ネルソンマンデラアフリカ科学技術大学院大学（タンザニア）
- ガーナ大学（ガーナ）

(2) 広報用ツールの制作およびオンライン会議設備等の整備

本プログラムを広く内外に広報していくためのロゴマーク、ウェブサイト、リーフレットなどを3月までに制作するとともに、オンラインでの会議や授業の実施に向けたオンライン環境を整備した。



ロゴマーク (UU-A)

1) 略称とロゴマークの制作：

本プログラム名「アフリカの潜在力と日本の科学技術融合によるSDGs 貢献人材育成プログラム」の略称として、宇都宮大学（Utsunomiya University）とアフリカの大学（African universities）を表す「UU-A」を採用した。また、ロゴマークを右図の通りとした。

2) 専用ウェブサイトの開設：

本プログラムの専用ウェブサイト (<https://uu-a.utsunomiya-u.ac.jp>) を3月に開設した。

3) リーフレットの制作：

本プログラムの広報用リーフレットを制作した。

4) オンライン会議設備等の整備：

アフリカの連携大学関係者との会議や来年度から始まる教育プログラムの実施のために、4号館B棟103教室のインターネット環境を整備したほか、オンライン会議に必要な機材等を配備した。

(3) キックオフミーティング：

本プログラムの始動を内外に広く紹介・告知することを目的に、3月にキックオフミーティングを開催し、約90名が参加した。

- 1) 日時：2021年3月24日（水）19：00～20：50
- 2) 場所：オンライン会議（ZOOM）
- 3) 参加者数：93名（アフリカ6大学:41名、宇都宮大学:38名、その他:14名）
- 4) プログラム（日本側敬称略）：

司 会：阪本公美子（宇都宮大学国際学部）

開会挨拶：池田 宰（宇都宮大学次期学長）

大学紹介：

- ①ジョモ・ケニヤッタ農工大学（ケニヤ）

Prof. Daniel Sila

- ②メル科学技術大学（ケニヤ）

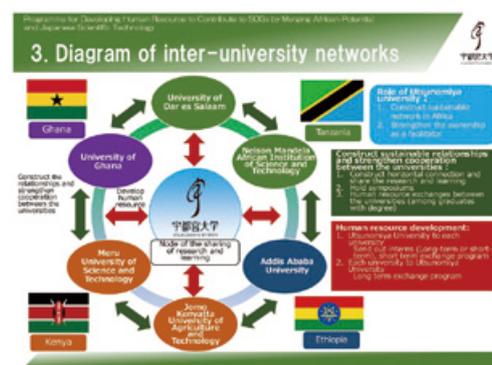


リーフレットの表紙

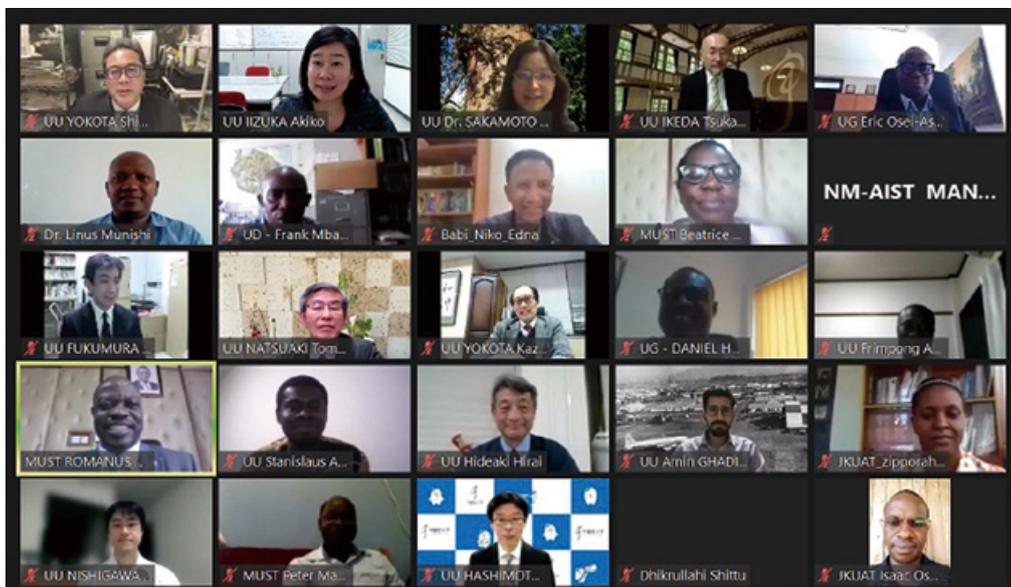
- Prof. Romanus Odhiambo
- ③ アディスアベバ大学 (エチオピア)
Dr. Tadesse Fetahi
- ④ ダルエスサラーム大学 (タンザニア)
Dr. Lulu Tunu Kaaya
- ⑤ ネルソンマンデラアフリカ科学技術大学院
大学 (タンザニア) Dr. Linus Munishi
- ⑥ ガーナ大学 (ガーナ)
Prof. Eric Osei-Assibey
- ⑦ 宇都宮大学 (日本)
飯塚 明子 (留学生・国際交流センター)
プログラム (UU-A) の説明:
横田 信三 (宇都宮大学農学部)
閉会挨拶: 夏秋 知英 (宇都宮大学理事)



キックオフミーティング (2021 年 3 月 24 日)



プログラム説明資料 (一部)



参加者 (一部) の集合写真

(4) 世界展開力ワーキンググループ (WG) [2021 年 3 月現在]

本プログラムの企画運営を行うワーキンググループを発足させ、年度内に 5 回のオンライン会議を開催した。



	氏名	所属・役職
座長	夏秋 知英	副学長・理事（研究・グローバル戦略担当）
メンバー	平井 英明	農学部教授（兼留学生・国際交流センター長）
	横田 信三	農学部教授
	西川 尚志	農学部准教授
	福村 一成	農学部准教授
	煉谷 裕太朗	農学部助教
	阪本 公美子	国際学部教授
	栗原 俊輔	国際学部准教授
	藤井 広重	国際学部助教
	湯本 浩之	留学生・国際交流センター教授・副センター長
	飯塚 明子	留学生・国際交流センター助教
事務局	田崎 正憲	留学生・国際交流センター事務室長
	神戸 幸	留学生・国際交流センター事務室国際交流企画係長
	大坪 里紗	留学生・国際交流センター事務室
	山本 浩之	留学生・国際交流センター事務室

(湯本 記)

1.5 国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラム

文部科学省が実施している標記プログラムに対して、本学は「多様な地域創生に資する工農イノベーション人材育成プログラム」を申請し、12月に採択された。本プログラムは、新たに海外から日本に留学する学生を国費外国人留学生として優先的に配置することにより、各大学において優秀な留学生を獲得する仕組みの構築を促すことを目的に公募されているものである。

申請プログラムの採択を受けて、留国センター長の平井英明教員を中心に、農学部大久保達弘教員、留国センター飯塚明子教員および工学部堀尾佳以教員でワーキンググループをつくり、その内容を検討した。さらに、作成した原案を、夏秋知英理事、横田和隆工学部長、地域創生科学研究科工農総合科学専攻長入江晃亘教員、永井康之事務長補佐、小澤好則係長、留国センター副センター長湯本浩之教員、田崎正憲室長、古橋礼子係長にご意見ご助力をいただき、本プログラムの企画立案を進めた。その結果、2021年度後期より、以下のようなプログラムを同研究科工農総合科学専攻で開講できるよう、同年度前期に参加学生を募集することとした。

<プログラムの概要>

- 1) 目的：多様な持続可能な開発目標（SDGs）と地域創生に資する工農に関するイノベーションを創出できる人材を育成すること。
- 2) 活動内容：所属専攻の学位プログラムの修了要件を充足した上で、次の活動等に参加する。
 - ① SDGsに関するセミナーに参加し発表する。
 - ② 「技術日本語」（地域創生リテラシー文系科目群）を履修する。
 - ③ 外国人留学生を支援する活動に積極的に参加する。
- 3) 募集専攻：

地域創生科学研究科・工農総合科学専攻
- 4) 募集人員：

私費外国人留学生3名、日本人学生3名
- 5) 募集開始時期：

2021年5月（予定）

(湯本 記)

2 相談体制・生活支援

2.1 基本的認識

下記の〔事前の対策〕と〔様々な制約の中での適切・迅速な対応〕については、毎号ほぼ同じ文章を掲載している。これは、留学生・国際交流センターが実施する「相談・指導」の根本に関わるからである。

〔事前の対策〕

留学生の置かれている立場は不安定なものである。一見何の問題もなく、元気で楽しく過ごしているようにみえる。留学生でも、日本という「異国=外国」での生活は母国同様であるはずがなく、常にストレスと隣り合わせの毎日である。留学生と接する教員・職員は、このことを基本的認識として心にとどめ、日頃から彼らの行動や表情に注意を払う必要があるだろう。そして何らかの変化が見えたとき、留学生に歩み寄り、その変化に危険な要素が含まれていないかどうかを確認することが常に求められている。つまり、すでに起こってしまった問題にどのように対処するかということ以前に、問題を起こさないための事前の解決が極めて重要な任務となる。

〔様々な制約の中での適切・迅速な対応〕

しかしながら、全ての留学生にまんべんなく接することは不可能と言わざるをえない。そこから何らかの問題が生ずることは避けられない事実でもある。実際のところ、大学が提供している生活環境、就学環境は、残念ながら必ずしも適正なものとはいいがたい。それが原因となり留学生の心理が揺らぎ、留学生の生活に重大な影響を与えることもありうる。留学生を取り巻く環境を改善するには多額の資金が必要となり、大学全体として取り組む姿勢が十分整っていない現実は遺憾と言わざるをえないが、そうした状況であっても、留学生と接する教員・職員は、むしろその中でより良い相談体制、より良い生活支援はどうあるべきかを考えると同時に、様々な制約下の現状でも実践できるものを実践して行くという姿勢が必要である。特に深刻な問題を抱える留学生に対しては、解決に向けて適切に対応し、迅速に行動することが求められる。

2.2 相談体制

留学生・国際交流センター専任教員2名が、生活・就学相談の担当者である。授業中、または授業の前後に何気なく交わす会話も重要である。「相談」と改まって構えるのではなく、留学生が言葉で表すことができないでいる、その時々々の心理状態を自然な対応で探ることが出来るからである。それにより、深刻な事態になる以前に留学生の気がかり、不安、現実的な問題を取り除く役割を果たしている。

2名の専任教員が各自のオフィスアワーを設け、出来る限り留学生の相談に乗れる体制も取っている。留学生は、このオフィスアワーに、授業等で接する機会の多い教員の所へ相談に行く傾向がある。その際、留学生によっては長い滞在中、精神的に不安定な状態に陥る者もある。これはかなり深刻なケースであり、そのような場合、彼らは相談相手として先ず自分が最も信頼でき、しかも母国語でコミュニケーション出来る人を求める。当センターの2名の専任教員とともに、英語に堪能であり、実際に、深刻な問題を抱えて担当教員を訪れた留学生もいる。言語に関しては完璧とまでは行かないまでも、ある程度整った環境であると判断される。留学生・国際交流センター事務室の職員も、留学生の相談に大きな役割を果たしている。彼らが諸手続等を行うために同事務室の窓口に来た際、積極的に留学生に話しかけ、心配事、相談したいことがないかどうか、常に配慮している。特に、交通事故、病気などの連絡が入った場合、休日を問わず、留学生をサポートできる体制となっている。また、英語に堪能な職員が数名おり、留学生のサポート体制を強化している。また、留学生国際交流会館に居住する留学生に対しては、主に会館担当職員が日常の相談に当たって



いるほか、重要な問題や事案に関しては、センターの教員や事務室の職員が対応に当たっている。

この様に、相談体制については、相談・指導担当の教員だけでなく、センターの教員・協力教員・職員が総動員で当たっている現状である。

【令和2年度留学生・国際交流センター専任教員のオフィスアワー】

教員名 \ 曜日	日	月	火	水	木	金
湯本浩之			12:00~13:00			
飯塚明子				10:00~12:00		

(以上、平井 記)

2.3 相談実績

留学生・国際交流センターでは、留学生の様々な生活上の問題について相談を受けるのは当然のことながら、それに加えて日本人学生の留学関連の相談や、留学生と日本人学生の交友・交流に関するアイデア、企画に関する相談等も行っている。以前は、個々の相談に関する情報（日時、内容、留学生・日本人学生等の種別）を表で示していたが、実際に行った相談を全て記録することが実質的に不可能なので（※近年、メールや電話による、問い合わせ・相談等が増加していることもその一因である）、2011年号以降、表による実績表示を止めている。

主な相談内容は次のとおり。

〔留学生〕

修学・進学／アルバイト／奨学金／住居／各種保証人／在留期間更新・在留資格変更 等

〔日本人学生〕

派遣留学に関する相談／チューター・アドバイザー関連／留学生との交流 等

留学生からの相談で深刻なものは、病気やケガ・交通事故等に関するものである。特に交通事故については、学生本人が相手方（多くは相手方の加入している保険会社）と対等に交渉するのはほぼ不可能であるため、事故対応サービス付きの保険（外国人留学生向け学研災付帯学生生活総合保険）への加入を強く推奨しているところである。

2.4 支援活動

(1) 留学生アドバイザー

本学在学学生による組織で、日本人学生と外国人留学生間の交流促進のため、各種イベントを企画・実施している。メンバーには、留学経験者・留学予定者の他、既に日本で生活している外国人留学生も含まれており、例年、センターが実施する留学生関連の交流会や、留学生の生活上のサポート等に協力するなど、幅広く精力的に活動しているが、2020年度はCOVID-19の影響により、活動を実施しなかった。

(2) チューター

外国人留学生に対し、学習・研究指導（予習・復習の手伝い）を中心に、日本語指導、日常の世話（学内外の案内、諸手続き、買い物、宿舎探しの補助等）を行う。支援を必要とする留学生ごとに、所属学部・研究科や出身国、語学力等を勘案し、チューター1名を割り当てている。チューターは、指導教員の判断により必要と認められる期間（原則、来日後1年以内）配置される。

(3) COVID-19 の流行に伴う支援（増山緊急奨学金）

本学独自の緊急支援金として、増山緊急奨学金の支給を2度行った。2020年5月募集時には91名、2021年1月募集時には20名の外国人留学生に対し、奨学金を支給した。

2.5 各種オリエンテーション

外国人留学生に対しては、交換留学生や学部新入学生を対象に、宇都宮大学において勉学する際に必要な日本語科目、基盤教育関係科目、日本での生活をする上での諸注意等に関するオリエンテーション及び説明会等を以下の通り実施しているが、2020年度はCOVID-19流行により、外国人の多くが上陸拒否となり、来日留学生が若干となったことと感染症対策から、集会形式で行うオリエンテーションは中止し、オンラインや個別面談での情報提供となった。

(1) 国際交流会館入居説明会

例年は、4月と10月の初旬に年2回、国際交流会館の新規入居者に、会館の施設管理やキッチン・シャワー室・洗濯室等の共同施設の利用方法や注意事項を国際交流会館集会室にて集会形式で行っている。

2020年度は、該当の入居者個別に留学生係から指導した。

(2) 新規来日留学生（学部留学生を除く）オリエンテーション

例年は、4月と10月の初旬に年2回、交換留学生・日研生等の非正規生の留学生を対象に、当センター開講科目の初級・中級・上級別の授業説明、日本語・日本文化研修プログラム説明、中級日本語短期留学プログラム説明、日本語授業履修にあたっての各留学生の日本語レベルチェックを行っている。

2020年度はオンライン交換留学・日研生含めて、在籍留学生個別に留学生係から指導し、日本語レベルチェックは受講希望の授業担当講師と留学生で個別相談とした。なお、授業担当講師との交流は随時の個別相談含めて、ウェブ会議ソフトや電子メールを利用したオンライン対応であった。

(3) 新規来日留学生生活上の留意事項説明会

例年は、4月と10月の初旬に年2回、交換留学生・日研生等の非正規生の留学生を対象に、役所の手続きや防犯・交通安全指導を、宇都宮東警察署の講和含めて行っている。

2020年度は対象となる留学生個別に留学生係から指導した。

(4) 新規来日留学生歓迎会

例年は、4月下旬と10月下旬に、新規来日留学生歓迎のために、学長及び関係理事、各学部の留学生指導担当教員や、留学生チューターや先輩留学生等、合計およそ100人以上が参集して顔合わせのための懇親会を例年開催している。

4月は緊急事態宣言下での集会となること、10月は該当留学生が若干名であることから中止した。

(5) 学部新入学生オリエンテーション

例年は、4月上旬に、学部正規生の新入生、特に国際学部開講日本語科目を履修する留学生を主な対象に、授業履修方法や日本での生活における注意事項について説明会を開催している。

2020年度は中止し、生活上の注意事項はセンターホームページに情報掲載にて対応し、聴講届の提出方法等のキャンパスライフへの助言は、4月から全学生オンライン授業となり留学生だけが情報取得に不利な状況ではなく、また、外国人に限らず海外に居て入国できない学生や県外に滞在していて宇都宮に来られない学生への対応と重なることが多いことから、留学生係及び各学部担当係等から個別に行った。

(6) 国際交流会館退去説明会

例年は、7月と3月に退居予定者に対して、帰国の航空券の手配や、会館退去の各種手続きについて会館の集会室で説明会を行っている。

2020年度は帰国時期が様々となったことなどもあり、留学生係から対象者個別に指導した。

(7) 交換留学生のための大学院進学説明会

例年は、7月中旬に、来日中の交換留学生を対象に、本学の学部や大学院、各入試の概要説明を行い、交換留学終了後の日本への再留学を促進する入試広報を行っている。2020年度は対象者が少ないこと、2021年度入試概要が私費外国人募集の有無含めて状況不明であったことから中止した。

(以上、留学生・国際交流センター事務室)

2.6 留学生の防災教育

(1) 背景と目的

日本は、地震や津波、大雨洪水、土砂災害といった様々な災害が発生する世界有数の災害大国である。宇都宮大学には、200名以上の留学生が在籍しているが、中には地震や津波、大雪等の災害が発生しない地域の出身者や、日本の学校や職場等で実施される避難訓練といった防災教育を受けたことがない留学生もいる。特に留学生の中には、来日直後は日本語で防災情報を得ることは難しく、住んでいる地域コミュニティについてよく知らないという学生もいる。このような課題を踏まえて、宇都宮大学の地域連携・貢献活動事業の助成を受けて、「留学生の『自助』と地域での『共助』を促す防災教育」を実施した。本事業では留学生が地域の災害や防災について学び、万が一災害が発生した際に、まず自らの命を守るための「自助」の行動をとることができることを目的とした。

(2) 実施方法

「表1」の実施スケジュールにあるとおり、まず2020年9月に宇都宮大学に在籍している留学生を対象に、防災意識に関するアンケート調査を行い、全留学生の半分以上である133名から回答を得た。その後、10～11月に栃木県国際交流協会等の関係機関から外国人向けの防災教育活動について聞き取り調査を行った。その結果、栃木県国際交流協会が作成した「わたしの避難カード」を参考にして、宇都宮大学の留学生を対象としたカードを作成することとした。

表1：実施スケジュール

2020年9月	防災意識のアンケート調査を実施
2020年10月～11月	関係機関から外国人向けの防災教育について聞き取り調査を実施
2021年1月～3月	栃木県・(公財)栃木県国際交流協会が作成した「わたしの避難カード」を参考に、大学院生や留学生の協力を得て作成
2021年4月	宇都宮大学の留学生を対象とした「私の防災カード」を2021年4月に発行

防災カードは、調査結果（宇都宮大学の留学生の関心の高い内容や使用言語、使用方法、情報提供の方法等）を踏まえて、防災の専門家、留学生や大学院生、留学生・国際交流センターの間で、防災、言語、教育といった様々な視点から、意見交換を行った。それを基に宇都宮大学の大学院生が原稿を作成し、修正を重ねた。最後に、多様な背景を持つ留学生（国籍、言語、滞在期間等）に原稿を見てもらい、内容や使用方法等について意見を聞いた上で、3月に（水に強く破れにくいユポ紙で印刷した）防災カード、カードケース、防災カードに電子上でアクセスするQRコードのシールを完成させた（「図1」参照）。



図1：完成したカードとQRコード

(3) 成果

完成した「私の防災カード」(“My disaster preparedness Card”)は、宇都宮大学の留学生が自然災害や事故に遭った時に、自分を守り、適切に対応するためのカードである。緊急時の電話番号や大学近くの避難所、地震や大雨、台風の時の注意事項、個人データ欄等が日本語と英語で記載されている(「図2」参照)。カードは2021年4月に発行し、事務室を通して在学中の留学生に配布したり、留学生・国際交流センターのホームページ(<https://intl.utsunomiya-u.ac.jp/university/university12.php>)に掲載している。



図2：八つ折りにする前の防災カードの表(左)と裏(右)

「私の防災カード」は、以下のように使うことができる。

- ①カードの個人データ欄に記入し、8つに小さく折って、学生証と一緒にいつも持ち歩く。
- ②目に付く所に置いておく。
- ③緊急時の避難袋に入れておく等。

本事業では、宇都宮大学の留学生の防災意識について明らかにした上で、関係機関と連携し、宇都宮大学の留学生を対象とする「私の防災カード」を作成した。今後も宇都宮大学の留学生の防災意識が向上し、安全な留学生活を送ることができるように、引き続き支援していきたい。

(飯塚 記)



3 留学生交流支援

3.1 栃木県地域留学生交流推進協議会

本協議会は、栃木県における留学生等の円滑な受入の促進と交流活動の推進を図り、地域住民の国際理解に寄与するために設立されたもので、県内の高等教育機関、国の機関、地方公共団体、経済団体及び国際交流団体等で構成されている。本学が事務局となっており、本年度は6月に総会、3月に運営委員会を開催した。

(1) 栃木県地域留学生交流推進協議会総会

- ①開催日時：令和2年6月12日（金）15：30～
- ②議 題：1) 令和元年度（平成31年度）栃木県地域留学生交流推進協議会実施事業について
2) 令和元年度（平成31年度）本推進協議会実施事業経費決算について
3) 令和2年度本推進協議会実施事業計画（案）について
4) 令和2年度本推進協議会実施事業経費予算（案）について
5) 令和2年度本推進協議会感謝状贈呈について
6) その他
- ③報告事項：1) 令和元年度（平成31年度）県内各種団体等による主な外国人留学生交流・支援事業について
2) 本推進協議会事業会計に係る令和2・3年度監査員について
3) その他

(2) 栃木県地域留学生交流推進協議会・運営委員会

本運営委員会は、栃木県地域留学生交流推進協議会規約（以下「協議会規約」という。）第8条第2項の規定に基づき設置され、協議会規約第3条に規定する協議事項について、具体的な実施方策を協議している。

- ①開催日時：令和3年3月5日（金）13：30～
- ②議 題：1) 令和2年度本推進協議会実施事業について
2) 令和2年度本推進協議会実施事業経費決算について
3) 令和3年度本推進協議会実施事業計画（案）について
4) 令和3年度本推進協議会実施事業経費予算（案）について
5) 令和3年度本推進協議会感謝状贈呈候補者（案）について
- ③報告事項：1) 令和2年度県内各種団体等による主な外国人留学生交流・支援事業について
2) 本推進協議会事業経費に係る令和2年度監査方法について
3) 令和4年度以降の監査員選出基準改正案について

(3) 留学生指導教員及び事務担当者研修会

本研修会は、栃木県内の大学、短期大学、高等専門学校において、留学生に対する教育、指導・相談を担当する教職員が一同に会し、留学生の受入・派遣における教職員相互の協力のあり方等について討議することにより、今後の留学生指導・支援の充実に資することを目的として、本「推進協議会」が開催するものである。本年度は、以下のとおり研修会を実施した。

- ①開催日時：令和2年11月26日（木）13：30～15：00
- ②講 義：1) 留学生の現状と受入について（技術・人文知識・国際業務在留資格の現状、特定活動の現状など）
2) 留学生の『在留資格認定証明書交付申請』におけるポイントについて

- 3) コロナ禍における出入国管理の今後について
- ③情報交換：
 - 1) コロナ禍での留学生の対応・対策について
 - 2) アルバイトが減った学生のサポートについて（奨学金貸付など）
 - 3) 今年度、どのように留学生をサポートしているか
 - 4) コロナの影響で学費未納の学生の対応について
 - 5) 新型コロナ関連により一時帰国したまま再入国できずにいる留学生への対応方法
 - 6) 一時帰国し再入国できなくなった留学生への学習支援方法
 - 7) 未入国の留学生への対応について（特に 2020 年 4 月入学生）
 - 8) 在留資格認定証明書の発行について
 - 9) 留学生の精神的サポートについて
 - 10) 再入国ができた留学生にどのようなサポートをしているか
 - 11) 通学不可、オンライン講義となった状況下での留学生に対する学習・生活管理、指導をどのように採っているか
 - 12) 留学生へ生活面でのルールを伝えることや困りごとのサポートをする中で、どのような支援を行政に求めるか
 - 13) 転入や転出手続きなど留学生の行政手続きをどのように行っているか
 - 14) 海外留学や留学生の受入れが難しい状況にあるが、何か新たな国際交流の取り組みを行っているか
 - 15) 短期留学の実施のガイドラインはどのような内容になっているか、参考にしてている政府や地方公共機関の基準などあるか
 - 16) 各大学等の留学生の就活の現状について
 - 17) 修了・卒業する留学生の進路指導をこの状況下でどのように進めているか
 - 18) （この状況下で）修了・卒業後の情報の把握をどのように採っているか（通常時含め）
 - 19) 留学生が就職先を探す方法について
 - 20) 就職先として、栃木県内の企業を選んだ留学生がいる（いた）場合、どのような理由で当該企業を選んだのか
 - 21) 災害や防災に関する留学生へのサポートを行っているか
 - 22) その他情報交換

3.2 交流支援事業の中止について

本年度は、COVID-19 の影響により、開催を予定していた以下の交流支援事業を中止した。

(1) 令和 2 年度新規留学生のためのガイダンス及び懇親ティーパーティー

地域留学生交流推進協議会及び公益財団法人栃木県国際交流協会共催による新規留学生のためのガイダンス及び懇親ティーパーティーを開催するものである。

開催日時：令和 2 年 5 月 30 日（土） ※COVID-19 拡大防止のため中止

(2) 令和 2 年度外国人留学生との交流会

宇都宮大学内において地域留学生交流推進協議会主催による交流会を開催し、県内高等教育機関に在籍する留学生、栃木県地域留学生交流推進協議会構成員及び宇都宮大学教職員等が参加するものである。

開催日時：令和 2 年 6 月 12 日（金） ※COVID-19 拡大防止のため中止

(3) 栃木県経済交友会からの物資支援

例年、「国際交流の集い（副題：七夕の会）」として、栃木県経済交友会から県内留学生を懇親会に招待いただいているが、中止となった。

なお、県内に滞在する留学生支援として、市場にマスクが不足していた6月に、県内各高等教育機関にサージカルマスクをご寄付いただいた。増山緊急奨学金支給や国際交流会館居住の留学生に配布した。

(4) 外国人留学生と地域交流団体等との交流会

例年は、国際理解、異文化交流の推進に寄与するため、留学生への日本文化の紹介・体験、異文化交流等を目的として、日本文化活動をする地域住民や本学学生サークル、および教職員等多くの参加を得て、着付け、生け花、茶道、折り紙の体験を行っているが、中止した。

3.3 小・中・高等学校での国際交流

例年は、栃木県内の小・中・高校からの要請により、本学の留学生を各学校の授業等に派遣し、交流や対話の場を提供している。2020年度はCOVID-19拡大予防のため、学外には時期等を鑑み留学生派遣をしなかった。

唯一、本学共同教育学部が、教員研修留学生による本学共同教育学部附属学校園（松原キャンパス）の訪問を行った。なお、例年は5月に実施しているが、今年度はCOVID-19の流行状況を鑑み11月に延期された。

<交流実績：計1件>

(1) 宇都宮大学教育学部附属学校園

- ①主 催：共同教育学部・共同教育学部附属学校園
- ②日 程：令和2年11月27日（金）
- ③派遣人数：教員研修留学生1名（マラウイ国出身者）
- ④交流内容：
 - 1) 幼稚園見学・参観（3歳児クラス演劇）
 - 2) 小学校校舎見学、質疑応答
 - 3) 小学校授業参観（第4校時・理科）
 - 4) 給食体験
 - 5) 中学校授業参観（第5校時・理科）



（以上、留学生・国際交流センター事務室）

4 留学生の獲得施策

4.1 日本留学フェアなどへの参加

留学生・国際交流センターでは、日本学生支援機構（JASSO）主催による「日本留学フェア」および「外国人学生のための進学説明会」に毎年参加してきた。「日本留学フェア」は海外会場で開催するもの、「外国人学生のための進学相談会」は、国内会場（東京・大阪）で開催するものであった。しかし、2020 年度は、感染症流行で渡航が困難となった上、国内会場でのイベント開催制限もあり、対面を伴う外国会場での開催は全て中止となった。代わりに、JASSO からオンライン開催による進学説明会の募集があり、これに参加した。

夏以降、JASSO の企画と同様、ポータルウェブサイトで参加大学等の学校・入試情報やプロモーション動画を収集・掲載し、ウェブ会議ソフトで個別相談等を行う、オンライン進学相談会形式の募集が増えていき、本学も下記のとおり参加した。

(1) 2020 年度「外国人学生のためのオンライン進学説明会」

1) 主催

独立行政法人日本学生支援機構（JASSO）

2) 概要：

①日程 2020 年 11 月 21 日（土）12:00～15:00 専修学校（専門課程）

2020 年 12 月 21 日（日）12:00～15:00 大学・短期大学

2020 年 11 月 28 日（土）12:00～15:00 大学・短期大学

うち大学・短期大学・高専その他関係機関で 2 日間、専修学校 8 専門課程で 1 日間

②配信対象エリア：主に国内

③参加対象者：日本国内にある日本語教育機関に在籍し、大学等への進学を目指している外国人学生、日本語教育機関関係者

④参加機関数（ライブセッション参加機関）

大学・短大等 国立 12 機関 公立 4 機関 私立 24 機関

専門学校（専門課程）20 機関

⑤開催概要

特設サイト開設（参加機関ページ、セミナー動画配信、学校検索機能）

開催当日ライブセッション（参加大学等作成の大学紹介動画放映、個別相談等）

会期終了後のライブセッション動画の公開

3) 本学概要：

ライブセッションは抽選漏れとなり、特設サイトに本学大学概要や入試情報を掲載した。

(2) 2020 年度日本留学オンラインフェア

1) 主催等

①主催：独立行政法人日本学生支援機構（JASSO）

②後援：外務省

③協力：インドネシア元日本留学生協、社団法人韓日協会、社団法人釜山韓日交流センター、タイ国元日本留学生協会、タイ国元日本留学生協会北部支部、ベトナム元日本留学生協会、越日友好協会、在ホーチミン市元日本留学生クラブ、マレーシア元留日学生協会、東方政策元日本留学生同窓会、全国専修学校各種学校総連合会、公益財団法人東京都専修学校各種学校協会、香港日本文化協会、香港留日学友会、日本奨学金留学生联合会、財団法人言語訓練試験中心

2) 概要

- ①日程：2020年11月29日（日）14:00～17:00 専修学校（専門課程）
 2020年12月6日（日）16:00～19:00 日本語教育機関
 2020年12月12日（土）14:00～17:00 大学・短期大学
 2020年12月13日（日）14:00～17:00 大学・短期大学
 うち大学・短期大学・高専その他関係機関で2日間、専修学校8専門課程で1日間、日本語教育機関で1日間
- ②配信対象エリア：全世界。例年フェアを現地開催している、中国本土、香港、台湾、タイ、インドネシア、韓国、ベトナム及びマレーシアを中心に広報活動
- ③参加対象者：日本への留学を希望する海外在住の外国人
- ④参加機関数（ライブセッション参加機関）：
 大学・短期大学等 13 機関 公立 2 機関 私立 15 機関
 専修学校（専門課程）21 機関
- ⑤開催概要：
 特設サイト開設（参加機関ページ、セミナー動画配信、学校検索機能）
 開催当日ライブセッション（参加大学等作成の大学紹介動画放映、個別相談等）
 会期終了後のライブセッション動画の公開

3) 本学概要

ライブセッションは抽選漏れとなり、特設サイトに本学大学概要や入試情報を掲載した。

4.2 日本語学校等を会場とした外国人学生のための進学説明会

従来は、日本語学校を会場とした、日本語学校在籍の外国人留学生対象の進学説明会に、春から夏にかけて参加しているが、2020年度は感染症対策から対面でのイベントは全て中止となった。

本学進学実績が1名あり、進学例年参加している長沼スクール（東京日本語学校）が、オンライン進学説明会を開催するとのことで参加した。

- ①日 程： 2020年8月19日（水）12:40～13:20
- ②参加者： 長沼スクール 外国人留学生3名、教員1名
 本学関係者 平井センター長、沖杉留学生係長、神戸国際交流企画係長
- ③場 所： オンライン（Zoom）
- ④進 行：
 ・参加者挨拶
 ・宇都宮大学の概要説明（立地、学部・附属施設紹介、日光・那須等栃木県の風景紹介）
 ・留学生の進学希望学部の概要説明
 ※ 留学生の志望学部： 国際学部2名（国際関係を学びたい、国際分野で日本で働きたい）
 農学部1名（農業経済学科進学希望、農場経営を学びたい）
 ・宇都宮大学の寮やアパート家賃等居住環境、近隣のアルバイト等
 ・入試情報（私費外国人留学生入試概要、過去問入手方法、オープンキャンパス実施時期）
- ⑤質問等
 ・私費外国人留学生入試において、英語試験の足切り点数はあるか（長沼スクール教員より）
 ・留学生は3人ともシャイで、宇大教職員が質問が無いかと問いかけてもなかなか答えず、長沼スクール教員に促されて、質問をしていた。日本語能力は昨年度同様、かなり高い。

4.3 日本留学海外拠点連携推進事業「日本留学・就職フェア（タイ）」

2021年3月に、金沢大学が日本留学海外拠点連携推進事業として主催した「日本留学・就職フェア（タイ）」に参加した。

(1) 概要

- ①主 催：金沢大学
- ②日 程：2021年3月1日（月）～17日（水）
- ③対象者：日本留学を希望するタイの高校生・大学生・社会人等
日本企業への就職を希望するタイ人留学生（日本に留学中のタイ人学生を含む）
- ③内 容：参加機関・企業紹介する特設ウェブサイト開設
Zoom ミーティングを用いたグループ相談会と全体相談会

(2) 本学参加概要

- ①本学日程：3月13日（土）18:00～18:30 全体説明会（Zoom）
3月14日（日）15:00～18:00 個別相談会（Zoom）
- ②参加者：平井英明センター長、飯塚明子教員、マリー・ケオマノータム教員（国際学部）、
渡邊文彦アドミッションセンター事務室長
- ③来場者数：全体説明会来場者7名、ブース来場者4名。
- ④相談内容等：交換留学、大学院入試、EJU、JLPT、国費留学生制度、など。

4.4 栃木県内の日本語学校訪問

2020年12月15日（火）に、セントメリー日本語学院、TBC 学院宇都宮本校及び小山校、宇都宮日本語学院、栃木国際教育学院を訪問し入試広報等を行った。

面談した各日本語学校の校長、理事長補佐、進路指導主任等からは、本学に対し、入試における得点情報の開示を求める声が多く聴かれた。

4.5 交換留学生のための大学院進学説明会

例年は、本学への交換留学生の本学各研究科への留学を奨励し、その教育・研究の特色や入試内容・日程等に関する情報を提供する目的で、平成23年度から「交換留学生のための大学院進学説明会」の開催している。

2020年度は対象となる来日留学生が少ないことから中止した。

4.6 宇都宮大学サテライトオフィスの一時休止

タイ国カセサート大学に本学サテライトオフィスを設置しており、タイへの交換留学生や現地同窓会活動の支援を行ってきたが、2020年度は感染症流行により対面交流のための場であるサテライトオフィスは、事実上の活動休止となっていた。感染症流行が終息せず、2021年度も海外派遣を前提とした活動は困難との見込みから、サテライトオフィス契約を2021年度は締結しないことにした。

なお、カセサート大学との大学間交流協定は継続しており、オンラインによる交換留学や合同授業の開催、同窓会活動等は継続予定である。

（以上、留学生・国際交流センター事務室）



5 日本人学生の海外派遣留学の推進・支援

5.1 海外留学説明会

グローバル人材の育成が叫ばれている今日、留学生・国際交流センターでは、海外に目を向け、交換留学はもちろん、短期の語学留学などに積極的にチャレンジしようとする学生を育成するため、例年、学生に対する様々な説明会を開催してきたが、2020年度は、COVID-19の影響で全ての留学関係説明会を中止とし、希望する学生については電話・メール等による個別対応を行った。なお、交換留学（派遣）候補者に対するオリエンテーションについては、2021年3月にオンラインで実施した。

(留学生・国際交流センター事務室)

5.2 国際インターンシップ

宇都宮大学の「グローバル人材育成プログラム」の一環として、2012年度から、海外の企業の支社や事業所、NGOや教育機関等で就労体験を行う国際インターンシップを実施している。しかし、2020年度はCOVID-19の影響により、夏期の実施を中止としたが、春期については、オンラインでのインターンシップを実施することとなり、マレーシアと台湾の2組織に2名を派遣することができた（下記「(2) 派遣実績」参照）。

また、延期となっていた令和元年度春期インターンシップ報告会を兼ねて、令和2年度春期インターンシップ実施に向けた説明会を12月にオンラインで開催した。

(1) 令和元年度春期「国際インターンシップ」報告会及び令和2年度春期実施概要説明会

- ①日 時：2020年12月2日（水）18：00～19：30
- ②場 所：オンライン開催（ZOOM）
- ③参加者数：学生14名（国際：11名、農学部：1名、工学部：1名、地域創生科学研究科：1名、※報告者を含む）、受入組織関係者6名、教職員12名、合計：32名。
- ④内 容：[進行] 湯本浩之（留学生・国際交流センター副センター長）
 - 1) 開会挨拶：平井英明（留学生・国際交流センター長）
 - 2) 令和元年度春期国際インターンシップ参加学生報告
 - 但野 杏（国際学部国際学科3年）臺北城市科技大学（台湾）
 - 村山 波瑠（農学部森林科学科3年）臺北城市科技大学（台湾）
 - 松谷 虹佑（国際学部応用化学科3年）台灣近畿國際旅行社股份有限公司（台湾）
 - 小寺 南歌（国際学部国際社会学科4年）Insar Tours & Travel Sdn. Bhd.（マレーシア）
 - ※ 本人欠席のため、国際インターンシップ事務室より報告
 - 3) 受入団体担当者からのコメント（敬称略）
 - 鍋嶋誠一郎（Insar Tours & Travel Sdn. Bhd. 常務取締役）
 - 富江 高広（台灣近畿國際旅行社股份有限公司 社長）
 - 陳乃慈（臺北城市科技大学応用外国語学科 学科主任）
 - 4) 令和2年度春期国際インターンシップ実施概要説明（2021年2～3月実施）
 - 栗原 謙治（コーディネーター）
 - 5) 閉会挨拶：吉田 一彦（国際学部教授）



春期募集ポスター

(2) 派遣実績

①令和2年度 夏期国際インターンシップ

COVID-19の影響により中止したため、派遣実績なし。

②令和2年度 春期国際インターンシップ

	氏名	学部・学科	学年	実習先	実習期間	実習国
1	Doan Nguyen Khoi	国際・国際	1	Insar Tours & Travel Sdn. Bhd	2/18～3/3	マレーシア
2	小林 隼平	工・機械システム工	3	臺北城市科技大学	3/8～3/26	台湾

(3) 国際インターンシップ・ワーキンググループ (WG) [令和2(2020)年度]

所 属	氏 名	所属部局	職 名
グループ長	平井 英明	農学部	教授 (センター長)
グループ員	中村 祐司	地域デザイン科学部	教授
	重田 康博	国際学部	教授
	吉田 一彦	国際学部	教授
	渡邊 信一	ものづくり創成工学センター	准教授
	天沼 実	共同教育学部	教授
	福村 一成	農学部	准教授
	湯本 浩之	留学生・国際交流センター	教授 (副センター長)
	飯塚 明子	留学生・国際交流センター	助教
	栗原 謙治	留学生・国際交流センター事務局	コーディネーター
	田崎 正憲	留学生・国際交流センター事務局	事務室長
事務局	神戸 幸	留学生・国際交流センター事務局	国際交流企画係長
	大坪 里紗	留学生・国際交流センター事務局	事務補佐員 (12月まで)

(4) 「国際インターンシップ」の評価調査の実施

2012年度に国際インターンシップが実施されて以来、これを通じて海外でインターンシップを経験した学生の人数は130名を越えている。2020年度で実施9年目を迎えるにあたり、参加学生の報告書やアンケート調査の結果、ならびに過去の関係資料から本事業の目的や達成目標を整理確認する評価調査を実施した。

本調査は、栗原謙治コーディネーターが担当し、取りまとめられた報告書をワーキンググループで検討および確認した。作成された報告書は以下の通りであるが、今後、国際インターンシップのあり方や課題を検討していく上での資料として活用していくこととした。

〔報告書〕

- ①「国際インターンシップの成果のとりまとめ調査報告 (参加者の自己評価)」(2020年6月)
- ②「国際インターンシップ参加学生の進路調査」(2020年6月)
- ③「国際インターンシップの目的」(2020年7月)
- ④「国際インターンシップの評価結果 (成果指標の集計)」(2020年9月)
- ⑤「国際インターンシップの目的と達成目標」(2020年10月)
- ⑥「〔改訂版〕国際インターンシップの成果のとりまとめ調査報告 (参加者の自己評価)」(2021年2月)」

以上の報告書の閲覧または入手を希望する場合は、留学生・国際交流センター事務局までお問い合わせいただきたい。

(湯本・栗原 記)



5.3 海外渡航前危機管理オリエンテーション

留学生・国際交流センターでは、海外留学の推進を行うと同時に、複雑化する国際情勢や自然災害などから生じる危機について、学生一人一人の意識の涵養を図るため、例年、「海外渡航前危機管理オリエンテーション」を開催している。これは、交換留学をはじめ、海外英語研修や国際インターンシップ等の大学主催プログラムで海外留学する学生に参加を義務付けるとともに、夏休みなど長期休業期間を利用して自ら海外に渡航する学生も対象としたものである。2020年度は、COVID-19の影響により、中止とした。

5.4 海外英語研修

(1) マレーシア・サラワク大学

宇都宮大学が大学間交流協定を結んでいる（2017年度締結）マレーシアのサラワク大学の協力を得て、2018年度から毎年2月に英語研修プログラムを実施している。本研修は、授業による英語能力の向上だけでなく、多民族国家であるマレーシアの自然環境豊かなボルネオ島サラワク州において、英語運用能力の高いサラワク大学生のバディと共に過ごす寮生活・課外活動を通じて、多文化共生や生物多様性などのテーマ理解を深めることも目的としたプログラムとなっている。今年度はCOVID-19流行により、10月の参加募集時期になっても2月の渡航の目途が立たなかったため、日本に滞在したままで、国際交流及び語学研修が可能なオンライン留学プログラムを実施した。

①実施概要

1) 研修先：国立マレーシア・サラワク大学（UNIMAS）オンライン講義

2) 参加学生数：学部生 22名

<内訳>

学部：地域デザイン 2名／国際 11名／教育 6名／工学 1名／農学 2名

学年：1年生 10名／2年生 5名／3年生 4名／4年生 3名

3) 関係教員：

夏秋知英（理事）／大久保達弘（農学部）／出羽尚（国際学部）／天沼実・山野有紀（教育学部）／高橋俊守（地域デザイン科学部）／飯塚明子（留学生・国際交流センター）

4) プログラム実施スケジュール

募集説明会：2020年11月16日（月）

募集期間：11月16日（木）～12月8日（金）

第1回事前研修：12月23日（水）

講話「SDGsの視点からサラワクをみる」

講師：湯本浩之（留学生・国際交流センター教授）

第2回事前研修：2021年1月20日（水）

講話「マレーシアのサラワク州で20年以上旅行会社で働いている日本人の話」

講師：鍋嶋誠一郎（Insar Tours & Travel Sdn. Bhd.）

講話「TOEIC Speaking & Writing Testについて」

講師：三村千恵子（EPUU教授）

第3回事前研修：2月12日（金）

講話「サラワクの地理・歴史・文化・自然について学ぼう」

講師：大久保達弘（農学部教授）

TOEIC S&W IP テスト：2月8日（月）～12日（金）および22日（月）～26日（金）

※ 研修前後1週間の受験期間中にオンラインの英語試験を行い、研修の効果測定を実施。

オンライン研修期間：2月15日（月）～20日（土）

オンライン研修報告会：3月10日（水）

②研修概要

1) オンライン英語研修：

オープニングセレモニーの後、サラワク大学言語コミュニケーション学部の英語の専門教員複数名による、様々なオンラインツールを用いた集中英語研修を実施（9：30～15：00）。授業では、SDGsを意識した内容を取り入れ、最終日には宇大生によるSDGsに関連した発表があった。クロージングセレモニーは、Mohamad Kadim Suaidi 副学長と夏秋副学長によるスピーチから始まり、学生による詩や歌の朗読、ダンスの披露などがあった。

2) オンライン Social Program（課外プログラム）：

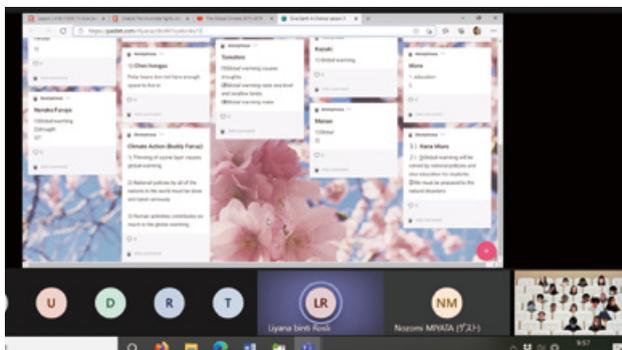
サラワクの歴史や文化、自然環境を学び、バディと国際交流を推進するため、Social Program を実施（15:00～16:30）。サラワク大学の概要、研究室訪問、小中学校の訪問、市内散策、伝統衣装や食物の紹介などを行った。また、宇大生も日本文化を紹介し国際的な文化交流を行った。

③その他

- 1) 研修期間中、サラワク大学の学生がバディとして10名参加し、英語の授業、Social Program、最終プレゼンテーションの作成をサポートしてくれた。
- 2) 研修期間の2月17日に下野新聞に「交流の絆オンラインでも」と題する記事が掲載された。



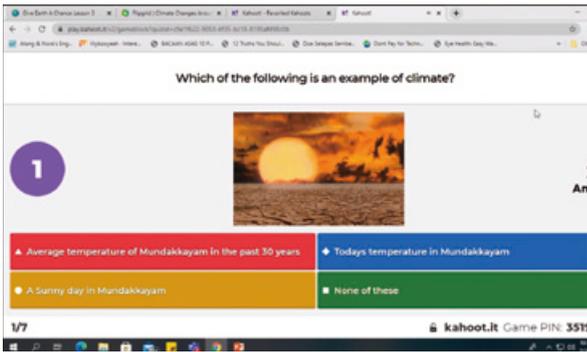
オンライン授業の様子



授業中にメモを見せ合う様子



下野新聞での紹介（2021.2.17）



授業中に出題されたクイズ



振袖を紹介する宇大生



サラワクの伝統衣装を着てダンスをするバディ



学生プレゼンテーションの様子



歌を披露する宇大生

(2) オーストラリア・サザンクロス大学

オーストラリアのニューサウスウェールズ州にあるサザンクロス大学が提供する英語研修プログラムを毎年8月後半に実施している。本研修では、英語の運用能力向上を主目的とした集中授業、オーストラリアの自然や文化に触れられるような課外活動を含む。加えて、参加学生は滞在期間を通じてオーストラリアの家庭にホームステイをし、現地の生活に触れる。

今年度はCOVID-19拡大の影響により、募集説明会と参加者募集を行う5月時点で海外に渡航できる目途が立たなかったため、説明会及び参加募集は行わず中止した。

(3) カナダ・カピラノ大学

交流協定締結に向けた交渉中のカナダ、ブリティッシュ・コロンビア州立カピラノ大学にて、2019 年度から英語研修プログラムを実施している。このプログラムは、他の海外英語研修参加者を含む中級以上の学生を対象として生まれ、バンクーバー都市圏の先住民地域や日系社会を含む多文化主義社会と大自然の利を生かしたカリキュラムになっている。学術目的の英語運用能力の獲得を目的とし、コースワークとフィールドトリップを組み合わせている点が特徴である。

夏を過ぎても COVID-19 拡大が収まらず、募集説明会と参加者募集を行う 10 月時点でも海外に渡航できる目途が立たなかったため、説明会及び参加募集は行わず中止した。

5.5 海外渡航危機管理サービス

グローバル人材育成の観点から、積極的に学生の海外留学を推進する一方、海外ではテロ、事件・事故、災害など各種のリスクが存在する。このことから、留学生・国際交流センターでは、これらのリスクに対応するため海外渡航危機管理サービスを導入した。このことにより、現地にいる学生へ危険情報の連絡や災害などが発生した際の安否確認ができるシステムを活用し、現地にて学生が困ったことが発生した時には 24 時間電話相談ができるサービスを受けられる体制を導入し、安心して海外留学ができる体制を構築している。

(以上、留学生・国際交流センター事務室)



6 各種協議会等への参加

本年度は以下のような各種協議会に教職員を派遣し、国際交流や留学生支援などに関する経験交流や情報収集に努めた。

6.1 令和2年度全国国立大学法人留学生センター長及び留学生課長等合同会議

(1) 実施概要

- ①開催形式：メール発信
- ②資料発出：令和2年10月20日（火）
- ③主催大学：静岡大学

(2) 送付資料

- 1) 静岡大学長 挨拶
- 2) 政府等機関の所管事項・事業等説明資料
文部科学省高等教育局学生・留学生課留学生交流室／外務省領事局海外邦人安全課／独立行政法人日本学生支援機構（JASSO）／独立行政法人大学改革支援・学位授与機構（NIAD）／独立行政法人日本貿易振興機構（JETRO）／一般社団法人日本経済団体連合会／公益財団法人日本国際教育支援協会（JEES）
- 3) 各国立大学法人からの承合事項及び回答一覧
(A) 通常業務に関する承合事項 ※ 略
(B) COVID-19 対策にかかる承合事項
- 4) 2つの全国国際系会議の統合に向けての検討状況
- 5) 事務担当者名簿
- 6) 当番大学一覧

6.2 令和2年度国立大学法人等国際企画担当責任者連絡協議会

(1) 実施概要

- ①開催形式：メール発信
- ②資料発出：令和2年10月29日（木）
- ③主催大学：北海道大学

(2) 送付資料

- 1) 次年度に向けての検討事項
資料1『「全国国立大学法人留学生センター長及び留学生課長等合同会議」との今後の運営方針の検討について』
- 2) 施策等説明資料の情報共有
 - (1) 文部科学省 大臣官房国際課
資料2『文部科学省の国際関係施策について』
 - (2) 文部科学省高等教育局高等教育企画課国際企画室
資料3『令和3年度概算要求の概要及びコロナ禍による国際化・教育交流への影響』
 - (3) 経済産業省貿易経済協力局貿易管理部安全保障貿易管理課
資料4『安全保障貿易管理と大学・研究機関における機微技術管理について』
 - (4) 独立行政法人国際協力機構（JICA）開発大学院連携推進室
資料5『JICA と留学生事業』

6.3 2020 年度国立大学法人留学生センター等留学生指導担当研究協議会

(1) 実施概要

- ①日 時：令和 2 年 9 月 8 日（火） 13：00～16：00
- ②開催方法：オンライン（Zoom）
- ③主催大学：東京大学グローバルキャンパス推進本部 国際化教育支援室
- ④本学参加者：堀尾 佳以（工学部講師）

(2) プログラム（敬称略）

総合司会：原田 麻里子（東京大学グローバルキャンパス推進本部国際化教育支援室講師）

①挨拶：矢口 祐人（東京大学グローバルキャンパス推進本部国際化教育支援室長）

②第 I 部：「留学生受け入れ政策をめぐる近年の動向」

丸岡 充（文部科学省高等教育局学生・留学生課課長補佐・室長補佐）

③第 II 部：「LGBTQ 学生支援：国境を越えた受入環境整備の課題」

企画主旨説明：大西 晶子（東京大学グローバルキャンパス推進本部国際化教育支援室准教授）

1) 「LGBTQ 基礎知識：大学生の支援における課題」

講師：石丸 径一朗（お茶の水女子大学生活科学部心理学科准教授）

2) 「国際的にみる LGBTQ の権利と日本の特徴：多様な性・家族や婚姻・在留資格上の扱いを中心に」

講師：永野 靖（弁護士）

3) 「国際基督教大学における先進的な取り組み事例の紹介：寮やキャンパス生活における対応・交換留学生の受入れ等における対応事例を中心に」

講師：島崎 弓子（国際基督教大学国際交流室長）

④第 III 部 留学生相談・支援関連各大学情報交換

6.4 2020 年度第 2 回国立大学法人留学生指導研究協議会

（兼：第 54 回大阪大学留学生教育・支援協議会）

(1) 実施概要

- ①日 時：2021 年 2 月 8 日（金） 13：00～17：00
- ②開催方法：オンライン（Zoom）
- ③主催大学：大阪大学国際教育交流センター
- ④テーマ：「COVID-19 禍の留学生の受け入れの状況と今後：パート II」
- ⑤本学参加者：湯本 浩之（留学生・国際交流センター副センター長）

(2) プログラム

I. 留学生受入れに関する施策「留学生受入れの推進に関する予算案と政策等について」

II. 分科会「COVID-19 禍の留学生の受け入れの状況と今後：パート II」

①「学生交流／地域交流（正課外の交流活動）」

②「留学生相談・指導・カウンセリング」

③「教育・授業・留学交流等」

④「生活支援（宿舎・経済面等）／就職支援」

III. 各分科会からの報告と全体討論 15 1 0 1 5 4 0

閉会の挨拶

オンライン懇親会



6.5 令和2年度日本語・日本文化研修留学生問題に関する検討会

(1) 実施概要

- ①日 時：令和2年11月20日（金）13：30～17：00
- ②場 所：オンライン開催（Zoom）
- ③主催大学：大阪大学日本語日本文化教育センター
- ④本学参加者：飯塚明子（留学生・国際交流センター責任教員）

(2) プログラム

開会

議事 (1) 文科省お話し (2) 質疑応答 (3) 拠点事業紹介

テーマ「日研究生教育におけるオンライン授業」

報告1 ハイブリッド授業構築までの歩み

報告2 日研究生教育におけるオンライン授業

質疑応答及びディスカッション

閉会

情報交換会

(以上、留学生・国際交流センター事務室)

〔お断り〕前号まで掲載してきました「教員個人活動実績」は今号より割愛にしましたので、各教員の研究実績等は、宇都宮大学ウェブサイトに掲載の「研究者総覧：留学生・国際交流センター」をご参照下さい。

III 資 料

1 留学生在籍状況

(1) 留学生種別在籍者数 (2020年5月現在)

	種 別	所 属	人 数	小 計
正規生	学 部	地域デザイン科学部	5	53
		国際学部	25	
		教育学部・共同教育学部	3	
		工学部	11	
		農学部	9	
	大学院	地域創生科学研究科	111	144
		国際学研究科	9	
		教育学研究科	0	
		工学研究科	15	
		農学研究科	0	
		連合農学研究科	9	
非正規生	研究生	地域デザイン科学部	7	38
		国際学部・国際学研究科	13	
		教育学部・共同教育学部・教育学研究科	6	
		工学部・工学研究科	7	
		農学部・農学研究科	5	
		連合農学研究科	0	
		留学生・国際交流センター	0	
	特別聴講学生 (協定校との交換留学生)	17	17	
	特別研究学生	1	1	
	日本語・日本文化研修留学生	5	5	
	教員研修留学生	2	2	
合 計			260	260

(2) 国・地域別留学生数 (国・地域数：22カ国・地域) ※ 香港を含む

国 名	人 数	国 名	人 数	国 名	人 数
中国 (※)	168	ドイツ	3	ブラジル	1
マレーシア	22	ガーナ	3	マラウイ	1
ベトナム	13	ウズベキスタン	1		
韓国	9	オマーン	1		
台湾	3	スロバキア	1		
カンボジア	8	バハマ	1		
モンゴル	9	ラオス	1		
タイ	5	ガボン	1		
バングラデシュ	4	グアテマラ	1		
インドネシア	3	スリランカ	1	合 計	260

2 国際交流協定校との受入・派遣状況一覧

(1) 大学間交流協定校との学生派遣・受入実績

大 学 名	国(地域)名	区分	年度				
			H28	H29	H30	H31	R2
浙江工業大学	中国	派遣				0	
カセサート大学	タイ	派遣	4	3	2	2	0
復旦大学	中国	派遣		0			
ビクトリア大学	オーストラリア	派遣					
		協定校私費				0	
祥明大学校	韓国	派遣	4	4	1	4	0
ノーザン・プリティッシュ・コロンビア大学	カナダ	派遣	2	2	1	1	0
		協定校私費	1	1		0	
電子科技大学	中国	派遣					
エアランゲン大学	ドイツ	派遣	3	4	3	3	1※
浙江師範大学	中国	派遣					
浙江大学	中国	派遣	1	1	2	3	0
内蒙古農業大学	中国	派遣					
ボゴール農科大学	インドネシア	派遣					0
寧波大学	中国	派遣			0	3	0
国立台湾師範大学	台湾	派遣	2	2	2	2	2※
		協定校私費					
香港大学	中国	派遣	1	2		1	0
国立政治大学	台湾	派遣	1	1	1	1	2※
パラツキー大学	チェコ	派遣	2	2	2	2	0
モンゴル人文大学	モンゴル	派遣		1			
ダッカ大学	バングラデシュ	派遣					
モンゴル生命科技大学	モンゴル	派遣			1		
蓮庵大学	韓国	派遣					
		派遣					
ノースダコタ大学	アメリカ	協定校私費					
オルレアン大学	フランス	派遣	3	2	1	2	0
アジア工科大学	タイ	派遣					0
全北大学校	韓国	派遣	1		0	0	0
東フィンランド大学	フィンランド	派遣			0		
慶北大学校	韓国	派遣	0	1	0	2	0
トライン大学	アメリカ	派遣	2	2	2	2	0
		派遣					
アイルランド国立大学ダブリン校	アイルランド	ダブルディグリー					
王立プノンベン大学	カンボジア	派遣	3	2	3	3	0
ガジャマダ大学	インドネシア	派遣					
		派遣	2	2	2	2	0
ヴインセンス大学	アメリカ	協定校私費	1			1	0
ポンティフィシアカトリック大学	ペルー	派遣		1	1	1	0
		派遣			0	3	0
サラワク大学	マレーシア	協定校私費				1	
ダナン科学技術大学	ベトナム	派遣					
ペラデニヤ大学	スリランカ	派遣			1	0	
ガーナ大学	ガーナ	派遣			1	1	0
パジャジャラン大学	インドネシア	派遣					
国立中興大学	台湾	派遣					
合 計			33	33	26	40	5

大 学 名	国(地域)名	区分	年度				
			H28	H29	H30	H31	R2
浙江工業大学	中国	受入	1		1		
カセサート大学	タイ	受入	1	3	4	2	
復旦大学	中国	受入					
ビクトリア大学	オーストラリア	受入					
祥明大学校	韓国	受入	4	4	4	4	
ノーザン・プリティッシュ・コロンビア大学	カナダ	受入					
電子科技大学	中国	受入	2	3	2	1	

エアランゲン大学	ドイツ	受入	1			1	
浙江師範大学	中国	受入	2	3	3	3	
浙江大学	中国	受入			2	3	
内蒙古農業大学	中国	受入					
ボゴール農科大学	インドネシア	受入					
寧波大学	中国	受入	4	4	4	4	
国立台湾師範大学	台湾	受入	3	4	4	3	
香港大学	中国	受入		0	1	2	
国立政治大学	台湾	受入	1	1	1	1	
パラツキー大学	チェコ	受入	2	1	1		
モンゴル人文大学	モンゴル	受入					
ダッカ大学	バングラデシュ	受入					
モンゴル生命科技大学	モンゴル	受入	0	1	1		
蓮庵大学	韓国	受入		3			
ノースダコタ大学	アメリカ	受入			1		
オルレアン大学	フランス	受入					
アジア工科大学	タイ	受入					
全北大学校	韓国	受入	1	3	3	3	
東フィンランド大学	フィンランド	受入					
慶北大学校	韓国	受入	2	3		2	
トリン大学	アメリカ	受入					
アイルランド国立大学ダブリン校	アイルランド	受入					
王立ブノンベン大学	カンボジア	受入	3	2	3	3	
ガジャマダ大学	インドネシア	受入	/	/	/	/	
ヴィンセンス大学	アメリカ	受入	1				
ポンティフィシアカトリック大学	ペルー	受入	/	/	/	/	
サラワク大学	マレーシア	受入	/	/	/	/	
ダナン科学技術大学	ベトナム	受入	/	/	/	/	
ペラデニヤ大学	スリランカ	受入	/	/	/	/	
ガーナ大学	ガーナ	受入	/	/	1	/	
バジャジャラン大学	インドネシア	受入	/	/	/	/	
国立中興大学	台湾	受入	/	/	/	/	
合 計			28	35	36	32	0

注 ※は、オンラインで実施。各年度欄の数字の「0」は希望者がいたが派遣・受入に至らなかったことを、空欄は派遣・受入の希望者がいなかったことを表す。

(2) 部局間交流協定校との学生派遣・受入実績

大 学 名	国(地域)名	本学の締結部局	区分	年度				
				H28	H29	H30	H31	R2
国立暨南国際大学(人文学院)	台湾	国際学部	派遣				0	
東華大学	中国	工学部	派遣					
龍華科技大学	台湾	工学部	派遣					
釜慶大学校	韓国	国際学部	派遣	0	1	1	1	
イルクーツク国立大学	ロシア	国際学部	派遣				2	0
キングモンクット工科大学トンブリー校	タイ	農学研究科	派遣					
齊齊哈爾大学	中国	国際学部	派遣					
ダマスカス大学	シリア	国際学部	派遣					
華南農業大学	中国	国際学部	派遣					
セントラル・ランカシャー大学	イギリス	国際学部	派遣	1	2	3	2	0
ポンティフィシアカトリック大学	ペルー	国際学部	派遣	/	/	/	/	/
国立台北大学	台湾	国際学部	派遣					0
コリマ大学	メキシコ	国際学部	派遣	1	2	0		
遼寧科技大学	中国	工学部	派遣					
ハノイ大学	ベトナム	国際学部	派遣	2	0	2	2	0
			協定校私費	1				
華東理工大学	中国	工学部	派遣	2	3	2	2	0
国立暨南国際大学(教育学院)	台湾	国際学部	派遣					
ペラデニヤ大学	スリランカ	国際学部	派遣					0
ガーナ大学	ガーナ	農学部	派遣	3	1	/	/	/
ブルサ工科大学	トルコ	農学部	派遣			/	/	/

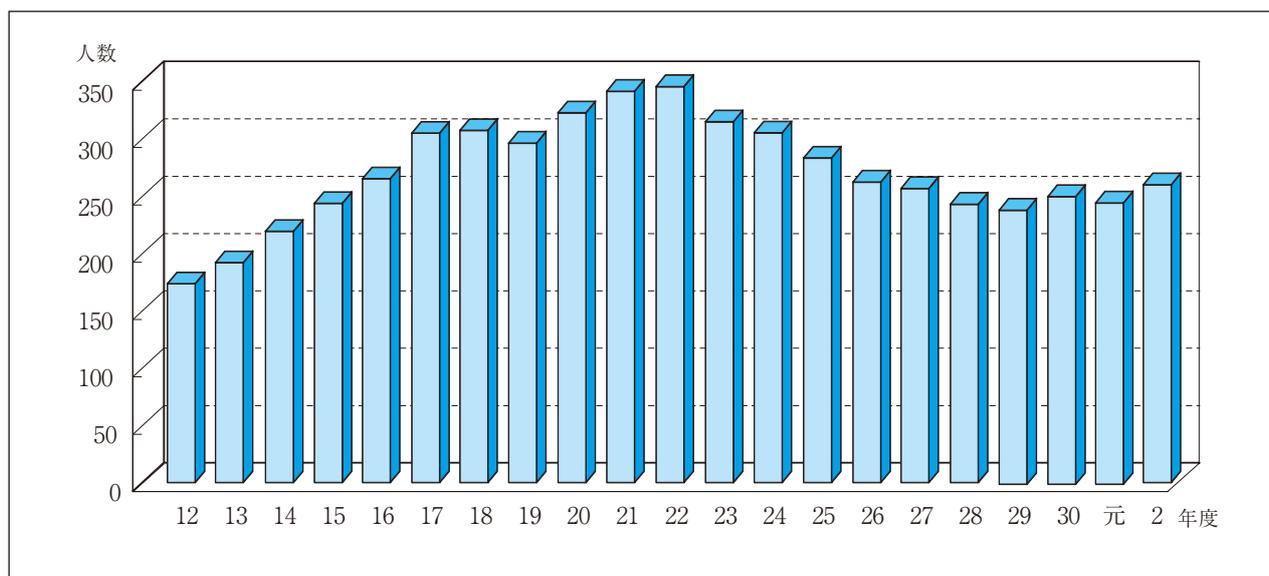
東フィンランド大学	フィンランド	工学研究科	ダブルディグリー					
ランブンマンクラット大学	インドネシア	農学部	派遣					
カンボジア王立農業大学	カンボジア	農学部	派遣					
トリサクティ大学	インドネシア	地域デザイン科学部	派遣					
ラオス国立大学	ラオス	農学部	派遣					
ベトナム国家農業大学	ベトナム	農学部	派遣					
モンゴル科学技術大学	モンゴル	農学部	派遣					
タマサート大学	タイ	国際学部	派遣					0
ノアカリ科学技術大学	バングラデシュ	工学部・工学研究科	派遣					
上海交通大学	中国	工学部・工学研究科 地域創生科学研究科	派遣					
合 計				10	9	8	9	0

大 学 名	国(地域)名	本学の締結部局	区分	年度				
				H27	H28	H29	H30	H31
国立暨南国際大学(人文学院)	台湾	国際学部	受入	2	1	2		
東華大学	中国	工学部	受入	1				
龍華科技大学	台湾	工学部	受入	2		3	3	1※
釜慶大学校	韓国	国際学部	受入	3	1	2	1	
イルクーツク国立大学	ロシア	国際学部	受入				4	
キングモンクット工科大学トンブリー校	タイ	工学研究科	受入					
齊齊哈爾大学	中国	国際学部	受入	2	2	2	2	2※
ダマスカス大学	シリア	国際学部	受入					
華南農業大学	中国	国際学部	受入					
セントラル・ランカシャー大学	イギリス	国際学部	受入	2	1	3		
ポンティフィシアカトリック大学	ペルー	国際学部	受入					
国立台北大学	台湾	国際学部	受入			1		
コリマ大学	メキシコ	国際学部	受入	1		2		
遼寧科技大学	中国	工学部	受入		1	1		
ハノイ大学	ベトナム	国際学部	受入	2	2	2	2	
トリア大学	ドイツ	国際学部	受入	2		2	2	
華東理工大	中国	工学部	受入					
国立暨南国際大学(教育学院)	台湾	国際学部	受入	1	2	1	2	
ペラデニヤ大学	スリランカ	国際学部	受入					
ガーナ大学	ガーナ	農学部	受入					
ブルサ工科大学	トルコ	農学部	受入					
東フィンランド大学	フィンランド	工学研究科	受入					
ランブンマンクラット大学	インドネシア	農学部	受入	2			1	
カンボジア王立農業大学	カンボジア	農学部	受入					
トリサクティ大学	インドネシア	地域デザイン科学部	受入					
ラオス国立大学	ラオス	農学部	受入					
ベトナム国家農業大学	ベトナム	農学部	受入					
モンゴル科学技術大学	モンゴル	農学部	受入					
タマサート大学	タイ	国際学部	受入					1
ノアカリ科学技術大学	バングラデシュ	工学部・工学研究科	受入					
上海交通大学	中国	工学部・工学研究科 地域創生科学研究科	受入				1	
合 計				20	10	21	18	4

注 ※は、オンラインで実施。各年度欄の数字の「0」は希望者がいたが派遣・受入に至らなかったことを、空欄は派遣・受入の希望者がいなかったことを表す。

(3) 留学生数の推移

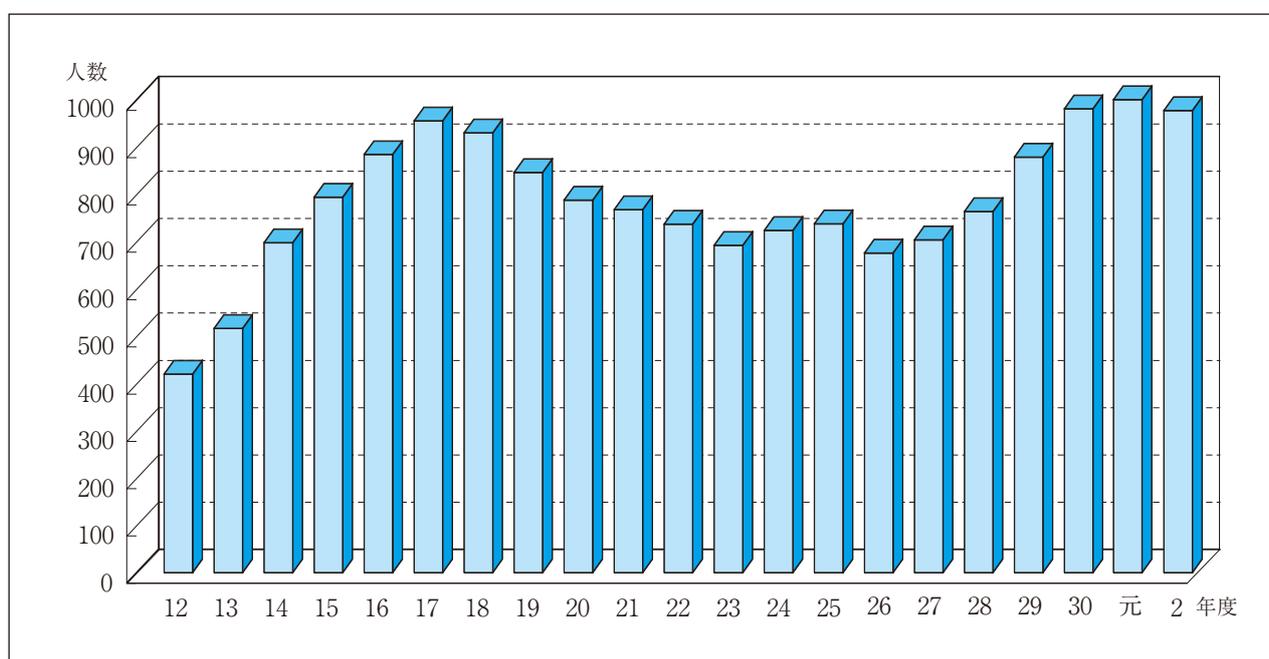
[各年5月1日現在]



年度	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	元	2
人数	176	193	221	244	264	303	306	295	322	340	345	313	305	284	263	257	244	237	249	244	260

(4) 栃木県内高等教育機関に在籍の外国人留学生数の推移

[各年5月1日現在]

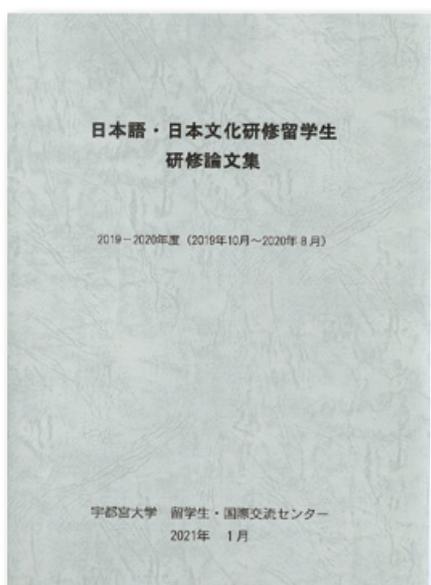
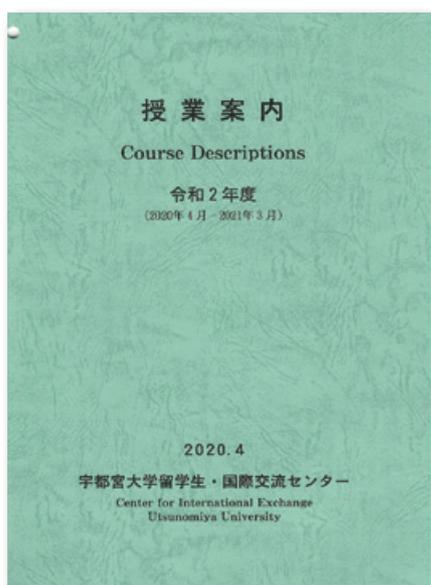


年度	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	元	2
人数	422	518	697	795	884	956	928	846	788	768	737	693	722	739	677	703	767	877	980	1004	980

3 留学生・国際交流センターの発行物

本年度は、以下の資料や報告書などを発行した。

- 1) 『令和2年度日本語科目授業案内 (CourseDescriptions)』 (2020年4月)
- 2) 『留学生・国際交流センター年報 2019年度』 (2020年8月)
- 3) 『2019-2020年度日本語・日本文化研修留学生研修論文集』 (2021年3月)
- 4) 『国際交流等に伴う危機管理対応マニュアル (第3版)』 (2021年3月)



宇都宮大学
留学生・国際交流センター年報 2020年度

発行日：2021（令和3）年8月1日

編者：宇都宮大学留学生・国際交流センター
（編集担当：湯本浩之・飯塚明子）

発者：宇都宮大学留学生・国際交流センター
〒321-8505 栃木県宇都宮市峰町350
＜担当部局＞留学生・国際交流センター事務室
TEL: 028-649-5099 FAX: 028-649-5115
Email: ryuugak1@miya.jm.utsunomiya-u.ac.jp
URL: <http://intl.utsunomiya-u.ac.jp/index.html>

レイアウト・印刷：株式会社アートプレス

